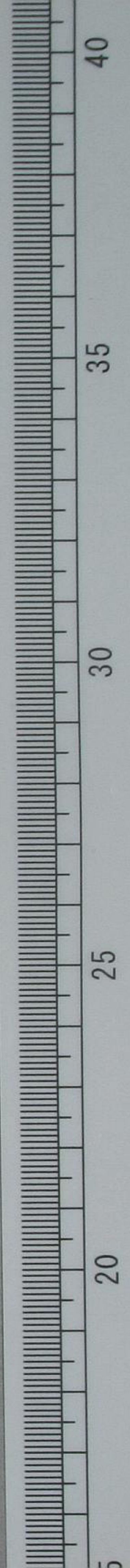




偶評
 續今體名家文抄
 土居光華編輯
 二三

柳田文庫
 文庫11
 A1395
 5



文庫11
A/1395
5

柳田泉文庫

偶評 續今體名家文抄卷之二

土居光華編選



○出板自由ナランヲ望ム論

高取岡氏藏本

津田真道

此語ヲ以テ文野ヲ判セバ我日本ハ何ノニ居ラン

世大惡魔王ヨリ甚シキモノアリ願クハ其名ヲ聞カン曰言カク

野蠻ハ政治ハ人ヲ羈軛ス文明ノ民ハ羈軛ヲ脱ス文野ハ別唯其民ハ言行自由ヲ得ルト得ハルトニ於テ視ルベキハ夫レ人ノ性靈本自由ナリ君子靜居天ヲ敬シ善ヲ思フ大惡魔王ト雖絶テ其自由ヲ障碍スルヲ能ハズ唯其言行ニ發ス

續今體名家文抄卷之二

ルニ方リテハ、或ハ威權ヲ弄シテ之ヲ禁ジ、或ハ
法例ヲ設ケテ之ヲ制ス、夫ハ威權ヲ弄シテ之ヲ
禁スルハ、野蠻ハ醜政、今之ヲ論外ニ附ス。法例ヲ
設ケテ之ヲ制スルハ、彼ノ半開ノ國、專制ノ政治
ニ多ク之レアリ、或ハ文明ノ俗ト稱スル國ニ於
テモ、間聞ク所ナリ、今聊之ヲ論セハ、英亞諸
國ニ於テハ、人民真ニ言行自由ヲ得タリ、但巳ノ
自由ヲ專ニスル為ニ、却テ他人ノ自由ヲ妨クル
ヲ得ザルノミ、佛朗西等ノ諸國ニ於テハ、出版
條例アリ、官許ヲ經ルニ非レバ、絶テ圖書ヲ鏤刻

處士橫議
國ノ美事

スルヲ聽サズ、元來佛朗西諸國ニ在リテハ、處
士橫議、民論沸騰、政府時トノ統御ニ苦シム、其ノ
政府數次顛覆ノ原、職トシテ之ニ由ラザルナシ
故ニ政府之ニ懲リテ、強テ人口ヲ鉗シ、永ク治安
ヲ保タント欲ス、拿破崙三世ノ猾智、一時其計ヲ
得タル者ニ似タリ、然ニ最後計失シ、術盡キ、亭ニ
降虜トナリ、英ニ客死シ、本國政治亦從テ顛覆ス、
豈是ヲ處置ハ宜シキヲ得タル者トセハ、余思
フニ佛國政治、數次顛覆ノ原由、却テ此ノ人口ヲ
鉗シ、自由ヲ妨クルニ在ルナリ、今ヤ我國人文、頗

商鑑遠
カリス

只福澤先生
ノ然ラザルアリ

若ビスマルク氏
如ク断然自カ
持セバ集思參
同社員ノ如キハ
雀噪蛙吹ニ過
ルノミ

ル開ケタリト謂フト雖モ未タ佛國ノ十一ニ及
バズ處士偶横論スル者アリト雖モ大率朝旨ヲ
迎ヘ相意ニ合スル者ニ過ズ豈陋ナラズヤ朝廷
何ヲ怖テ是ヲ許サ、ルヤ、縱令ヒ處士ノ横議佛
國ノ如クナルモ朝廷ノ事ヲ處スルヤ、須ラク斷
然所見アル彼得大ノ魯ニ帝タル、ビスマルク侯
ノ字ニ相タルガ如ナルベシ、何ゾ其處士ノ紛紜
論議スルヲ憂ヘ、且政事ハ誅謗シ、罪惡ヲ誣
告シ他人ヲ罵詈スル如キハ、朝ニ成典アリ、至當
ハ罰ニ處シテ可ハリ、縱令出板條例アルモ、年々

英雄心事選
觀小人ノ解
所ニ非ズ

神田先生曾
余ニ謂テ曰ク
西洋ノ婦人ヲ

數十百萬言ノ鏤刻、豈檢官逐一之ヲ調査スル
ヲ得ンヤ、其實ハ有名無實ノ徒法ナルニ似タリ、
余輩仰キ望ムラクハ、朝廷速ニ正公大明、磊々落
々、日月ノ天ニ懸ル如キ、政令ヲ出シテ、以テ出板
自由ノ免許ヲ各人民ニ與ヘ、以テ我國人民一層
ノ眼目ヲ開キ、不羈自由ノ膽略ヲ大ニセシメン
トヲ蓋シ是、開明ヲ進ムル最捷徑ナリ、

○夫婦同權ノ流弊論 其二

加藤弘之

或云ク足下ノ夫婦同權ノ流弊論ヲ讀ムニ、其云

尊ス古来一
 種婦人ヲ尊フ
 如ク土人歐洲
 莫不遂二其
 風ヲナスモノシテ
 乃一種ノ風俗
 ナリ道理ヨリ成
 リユフモノモ非
 又權利ヨリ成
 立ツモノモ非ル
 ナリ

所甚ク謬レリ。足下ハ洋人夫婦同權ノ理ヲ誤
 ツテ、婦人ヲ尊敬シ、遂ニ婦權ヲシテ甚ク倨傲ナ
 ラシムルニ至レリト云ヘリ。然ルニ足下ノ洋人、
 其婦ヲ尊敬スルトナスハ、決シテ尊敬スルニア
 ラズ、婦ヲ扶助スルナリ。凡ソ婦人ハ體質軟弱、加
 フルニ天性謙遜ナル者ナレハ、若シ男子ノ之ヲ
 扶助スルアラザレハ、決シテ其安全ヲ得ル能ハ
 サルヲ以テナリ。然ルニ足下此理ヲ知ラス、漫ニ
 洋習ヲ非議スルカ如キハ、最モ不可ナリ。請フ熟
 慮セヨト。余之ヲ聞キ之ニ應テ云、余ヲ以テ之ヲ

見レハ、足下ノ賢ト雖モ、洋習ニ浸染スル既ニ久
 シキヲ以テ、遂ニ其流弊ヲ併セテ之ヲ善シト
 シ、其非ヲ悟ラサルナリ。請フ試ミ之ヲ論セシ、
 足下ノ論ニ從ヘハ、夫ノ婦ヲ尊敬スルカ如ク見
 ユルハ、之ヲ尊敬スルニアラス、之ヲ扶助スルナ
 リト。蓋シ尊敬ト扶助トハ、其別固ヨリ判然タラ
 サル可ラス。然ルニ例ヘハ婦人ノ側ニ喫烟ヲ禁
 シ、婦人ノ名ヲ先ニ呼テ、夫ノ名ヲ後ニシ、或ハ禮
 ヲ述フルニ、婦人ヲ先キニシテ、夫ヲ後ニシ、婦人
 ヲ上座ニ著カシメテ、夫次坐ヲ占ムルカ如キ、何

讀入禮名家文少卷之二

ヲ以テ扶助ノ意トナスヤ。是等ヲ以テ婦人ヲ扶
助スルトナス。實ニ解ス可カラサルノ甚タシキ
者ト云フベシ。但若シ足下ノ意。男子ノ婦人ヲ扶
助スルニハ。已ムヲ得ス上ニ數件ノ如ク。殆ト尊
敬ニ類スルヲモ為サ、ル可ラストセハ。余亦
一論アリ。凡ソ弱キ者ヲ扶助スル。豈獨リ男子ハ
婦人ニ於ケルハミナランヤ。政府ハ人民ニ於ケ
ル。父母ハ子女ニ於ケル。亦皆弱キヲ以テ之ヲ扶
助スルナリ。政府ノ人民ニ於ケルト。父母ノ子女
ニ於ケルトハ。其理固ヨリ異ナリト雖モ。人民各

自ラ保護スル能ハサルノ故ヲ以テ。政府已ムヲ
得ス其保護ヲ以テ任スルノ理ハ。父母ノ子女ヲ
保護スルノ理ト大異アルナシ。若シ弱キ者ヲ
扶助スルニハ。已ムヲ得ス尊敬ニ類スルヲモ
為サ、ル可ラストセハ。政府ハ人民ニ上位ヲ與
ヘテ。自ラ賤位ヲ取リ。父母ハ子女ヲ上坐ニ著カ
シムテ。已ハ次坐ヲ占ムカハ可ラズ。然ルニ西洋
ト雖。決メ是等ノトアラスシテ。人民ハ主ニシテ
政府ハ。人民ノ為メニ存在スル者ナレハ。本來ノ
理ニ於テハ。人民上ニアリテ。政府下ニアルヘキ

啓論切實
論風生

豊
五

大ニ然リ大
然リ余一可
族其ノ家ニ
遊フ坐ニ
書生トアル
主人書生ヲ
呼ブニハ名ヲ
以テシ故ヲ呼
ガニハ様及ヒ
サンヲ以テス
其姦ニ謂事
其穢心ヲ得
ト欲ス死シ
西洋人其婦
ヲ尊ブト一
捧腹

カ如クナレ氏政府ハ人民ヲ保護スルノ大權ヲ
掌握セサル可ラサルヲ以テ必ス上位ヲ占ムル
ヲ要スルナリ故ニ共和政治ノ國ト雖モ政府ハ
必ス人民ノ上ニ位スルナリ獨リ夫婦男女ノ間
ニ此惡習ノアルハ何ソヤ是レ余カ決シテ足下
ノ論ニ服セサル所以ナリ是ハ豈男子ハ婦人ニ
諂事シテ其歡心ヲ得ハト欲スル痴情ヨリ生シ
タル流弊ト云ハハハハハ得ハヤ足下以テ奈何ト
ナス

○夫婦有別論

津田真道

舜ノ世他人
ノ妻ヲ姦スレ
バ如何ナル
刑アリヤ

夫婦有別是舜契ニ命シテ敷キ教ヘシムル所ノ
五教ノ一ニシテ舜契以來四千年ノ久シキ亞細
亞東方數億ノ人悉ク之ヲ遵奉シテ疑ハス余幼
年ノ時ヨリ獨リ之ヲ疑テ信スルコト能ハズ疑ノ
解ケザル蓋十數年之ヲ儒者ニ質ス曰ク夫婦内
外ノ別アリ此別ヲ正シウシテ相褻瀆セザルナ
リ或曰ク他人ノ夫婦ト別アリ混淆スル無キナ
リ然ルニ夫婦一定他人ト相混スルコトナシ是野
蠻ノ國ト雖モ然ラザルナシ他人ノ妻ヲ姦スレ
バ國自カラ典刑アリ何ゾ教トスルヲ英ンヤ然

讀入禮記家範少卷之二

清ノ風俗ノ見テ支那ノ古代ヲ判ス未ダ其當ヲ得ルヤ否ヤヲ知ラス

レ氏堯舜ノ大聖人ナルモ、舜ハ堯ノ二女ヲ娶リ
兩ナカラ之ヲ婦トシ恪トシテ耻ルヲ知ラズ、
當時彝倫ノ未タ明ラカナラズ、夫婦混淆ノ憂ア
ル、何ゾ疑ヲ容レンヤ、然レバ、則此説是ニ似タリ、
然レ氏余更ニ疑フ、後世開化漸進、夫婦既ニ別異
アリ、自他混亂ノ憂ナキ時ニ及ンテ、孔孟程朱ノ
徒曾テ之ヲ改正セザルハ何ゾヤ、余往年使ヲ奉
シテ清國京師ニ至リ、始テ夫婦有別ノ別字、他人
ノ夫婦ト別異アルノ義ニ非ズシテ、夫婦内外ノ
別アリ、相褻瀆セザルノ義タルヲ知レリ、上海

天津北京等ノ處、人口稠密街衢ヲ行クニ、肩摩
擊、倫敦巴黎ト雖モ、往來此ノ如ク雜遝スルヲ見
ズ、然リ而シテ街路上、一人ノ支那婦人ヲ見ズ、童然
ルノミナラズ、鋪頭亦婦女子ノ坐スルヲ見ズ、蓋
シ婦ハ室内ニ閉居シテ、曾テ外人ニ接セザルナ
リ、是夫婦男女ノ別ヲ嚴ニスル所以ナリ、此風獨
リ支那ノミナラズ、所謂西域諸國皆然リ、土耳其
ハ突厥ナリ故ニ亦然リト、抑聖人ノ此ノ如ク、夫
婦内外ノ別ヲ正クシ、分界ヲ嚴ニスル所以、奈何
曰ク、造物主、生愛ノ徳、人、獸、草木ニ及ブ、過ルアリ

テ及バザルナク、餘アリテ足ラザルナシ。禽獸草木生育蕃植ノ感ナルヲ論ヲ埃ズ。人ノ以テ生々繁植スル所以、男女相愛ノ情ニ原ク、苟モ直情徑行ニ任セハ禽獸何ソ擇ハシ、何ゾ夫婦ノ別アラシ。凡聖人ノ禮ヲ制シ、法ヲ創ムル、大抵過餘ノ情性ヲ節スル所以ニアラザルハナシ。夫ハ西哲人ハ、過多ヲ憂ヘ、婚姻ハ法ヲ嚴ニスル所以ト、支那ハ聖人夫婦内外ハ別ヲ嚴ニスル所以ト、其旨趣大異ナキハ、然レモ支那人痛ク女性ヲ屈シ、婦ヲ視ル婢ノ如ク、之ヲ室内ニ閉居セシムルハ、

論頗奇意頗
圖

孔孟程朱亦
將ニ奔且僵シ

之ヲ牢獄ニ幽因スルニ異ナラズ、其弊ヤ亦甚シト謂フ。孔孟程朱ノ大見識ヲ具シテ、遂ニ此ニ論ナシ。是支那人古ヲ盲信スル以テ弊ナリ。○修身治國非二途論、西村茂樹、支那ノ儒者、學問ト、政事ト、分レテ兩途ト為リシヲ、嘆ゼシ者アリ。余謂ヘラク學問ト、政事ノ分レテ、兩途ト為リシハ、深ク嘆ズルニ足ラズ、深ク嘆ズベキ者ハ、修身ト、政事ト分レテ兩途ト為リシナリ。大學ニ、修身齊家治國平天下ノ、順序ヲ説キ、孟子モ、天下ノ本ハ、家ニ在リ、家ノ本ハ、身ニ在リ、

注意

讀入禮記名家文以卷之二
八

叙得テ歟
或余ニ謂テ曰
ク日本入其身
愈高キモ其
品行愈下何ト

ト云ヒ、其他脩身ヲ以テ、治國ノ本ト為セシ者、枚
舉ニ遑アラズ。我邦ノ人、孔孟ノ道ヲ尊崇セシキ
ハ、能ク此等ノ言ヲ守リ、國ヲ治メントスル者ハ、
必ス其身ヲ脩ムベキ者ト思ヘリ。或ハ實事上ニ於テ、
ルモ、維新以來、學問ハ風一變シ。孔孟ノ道ハ、既ニ
衰ヘ、西國ノ理學ハ、未入ラズ。其狀恰モ日已ニ没
シテ、月ハ未ダ昇ラザル時ハ如シ。是ニ由リ、世ハ
功利ニ趨ルハ徒、孔孟ハ道ヲ以テ、迂闊ナリトシ。
脩身誠意ノ學ヲ務メズ、其身衆人ノ上ニ在テ、其
品行衆人ノ下ニ在ル者アリ、豈慨歎スベキハ至

ナレハ富貴者
其欲ヲ恣ニスル
ヲ得食賤者
其欲ヲ節セザル
ヲ得ヤ、ハナリト

ニ、アラズヤ。今孔孟ノ道ヲ以テ、此輩ヲ箴セシ
スルモ、孔孟ノ道ハ、此輩ノ唾棄スル所ナレバ、之
ヲ言フモ、益ナカルベシ。因テ西國諸賢ノ説ニ據
リ、脩身治國ノ二途ニ非ルヲ述ル。左ノ如シ。
凡天地間ノ萬物、其數測リ難シト雖、氏約シテ之
ヲ見レバ、動物、植物、礦物、ノ三者ニ過ギズ。三者皆
上帝ノ管治ヲ受ケテ、此世界ニ現存シ、而シテ、上
帝ノ此三者ヲ管治スルノ法ハ、形體、生活、知覺ノ
三者ニ過ギズ。礦物ハ形體アルノミ、植物ハ形體
ト、生活アリテ、知覺ナシ。此三者ヲ兼ルハ、獨動物

ノミナリ。是ニ由テ之ヲ觀ハバ、動物ハ他ハ二物
ニ比スハハ最上帝ハカヲ用キシモハナル下明
ナリ。動物ヲ分チテ、二ト為ス。一ヲ人ト云ヒ、一ヲ
禽獸ト云フ。人ノ禽獸ニ異ル。所以ハ其形體ノ同
ジカラザル為ノミニ非ルナリ。凡動物ト云フ者
ハ、皆動物分ト。道理分ノ二部ヲ以テ成ル者ナリ。
動物分ト云フハ、人類禽獸ノ差別ナク、都テ動物
タル者盡ク已ニ有セル部分ナリ。道理分ト云フ
ハ、唯人類ノ體中ニノミアリテ、禽獸ニハ決シテ
ナキ部分ナリ。是ニ由テ之ヲ觀ハバ、人類ハ他ハ

立柱分甲

照應束收

動物ニ比スルハ殊ニ上帝ノ篤ク心ヲ用ヒシモ
ハナル下明ナリ。動物分トハ儒者ノ所謂物欲ト
云フ者ニシテ、之ヲ分テハ情欲貪欲ト云フト為
ル。道理分ハ所謂天理ト云フ者ニシテ、其主ト為
ル者ヲ良心ト云ヒ、良心ノ力ニ賴テ天理ト物欲
トヲ區別スルヲ得ルナリ。人ノ身ヲ脩メ、家ヲ
齊ヘ、國ヲ治メ、天下ヲ平ニスルハ、共ニ道理世界
ノ事ニシテ、動物世界或ハ禽獸世界ノ事ニ非ズ。凡ソ道
理分ノ力強クシテ、常ニ動物分ヲ壓伏スル者ヲ
君子トシ、聖賢トス。動物分ノ力強クシテ、常ニ道

讀入分豊名家文少卷之二 十

説得テ確

理分ヲ歴伏スル者ヲ小人トシ。凡人トシ。又名ケ
テ禽獸ニ近シトス。故ニ能ク身ヲ脩ムル者ハ。又
能ク國ヲ治ムベキハ理ナリ。何トナレバ。修身治
國ハ。共ニ道理世界ノ事ナレバナリ。物欲ニ制セ
ラレテ。身ヲ修ムル。能ハザル者ハ。又國ヲ治ム
ル。能ハザル。理ナリ。何トナレバ。國ヲ治ムル
ハ。禽獸世界ノ事ニ非ザレバナリ。米國ノ博士エ
トマシ曰ク。修身學ハ正シキ政治ノ根原ナリ。ト
以テ余ガ言ノ証ザルヲ見ルベシ。英國ノ學士ベ
ンタム曰ク。政治上ニ善ト為ス所ノ事ハ。修身

米國ノ孔夫子ト云フベシ

方今上等會社是等人士ニシカラス

輕薄才子一時意ヲ得官ニ上ルモノ大抵

上ニテ不善ト為ス。ナシト。蓋シ。修身。政治。共ニ
道理分ノカヲ以テ。之ヲ行フ者ナリ。故ニ其善ト
スル所。不善トスル所。共ニ同一ニシテ。岐異アル
トナシ。若身ヲ修ムル時ハ。動物分ノ意ニ任セ。政
治ヲ為ス時ハ。道理分ノ意ニ任スト。言ハバ。半人
半馬カ。人身牛頭ハ者ニ非ザレバ。之ヲ行フ。能
ハザルベシ。近年顯官。貴族ノ中。其内行修マラズ
シテ。識者ノ嗤笑ト為ル者アリ。然レ。其人ハ蓋
シ自謂ハン。大業ヲ立テ。大事ヲ成ス者ハ。區々
ル小節ヲ守ルニ堪ヘズト。安ガ知ラハ。其成ス所

此弊を免レズ

陽明曰ク山中ノ賊ヲ破ルハ易シ心中ノ賊ヲ破ルハ難シ英雄學士ノ所見其符ヲ合スガ如シ敬服

ハ業甚大ナラズシテ其破ル所ハ節甚小ナラザル
ト云、英國ノ博士トーマス、ブローヤン、曰ク、敵ニ
勝ツヲ以テ、勇ト為ス。勿レ、己ガ情欲ニ克チ得
テ始メテ真ノ勇者ト稱スベシト。夫亂世ノ英雄
ノ如キハ、或ハ其功業ヲ論シテ、其品行ヲ略スル
トアリ、然レ、君子ヨリ、之ヲ觀レバ、猶論ズベキ
アル。此ノ如シ、況ヤ太平ノ世、風俗ヲ正シ、禮儀
ヲ明ニセントスル時ニ當リ、其身高官ニ居リ、其
品行匹夫ニ類スル者ハ、安ジ之ヲ議セザルハ、
得ンヤ、人ノ内行ハ、善惡共ニ、其一身ニ止マリテ、

大ニ然リ

利害ヲ他人ニ及ボス者ニ非ズ、然ルニ、世ノ識者、
猶之ヲ論シテ、止マザルハ、何ゾヤ、夫顯官貴族ハ、
民ノ表式ト為ル者ナリ、古人曰ハズヤ、上ノ好ム
所、下必ス是レヨリ甚シキ者アリト。吳王劍客ヲ
好メバ、國中ニ人ヲ殺ス者多シ、苟モ、官人貴族ノ
好尚正シカラザルキハ、下民ノ風俗醜陋、鼻猥、言
フニ、恐ビザル者アリ、野蠻國ト云ヒ、文明國ト云
ハモ、民ハ風俗上ヨリ、其品位ヲ定メタル者ナリ、
在上ハ人ハ品行ニ依テ、民ハ風俗變シ、民ハ風俗
ニ依テ、國ハ品位定ムル、然ラバ、民ハ上カハ者安

一國ハ一人多キナリ

讀ハシ禮記家文少卷之二 十二

針、竊ムモノ
ハ謀セテ國ヲ
盗ムモノハ王

此處一段兩
意

其身ヲ修ムザルベケンヤ。方今在上ノ諸賢野
蠻ヲ厭ヒ、文明ヲ好ムノ心甚銳。是ニ於テ、詿誤違
式ハ如キ繁細ハ律ヲ定メ、露脚立尿ハ如キモ皆
盡ク罰アリ。謂ヘラク其行醜陋ニシテ、野蠻ニ近
シト、殊ニ知ラズ。官員貴族ハ醜行、更ニ露脚立尿
ヨリ甚シキ者アル下ヲ、其大ヲ棄テ其小ヲ罪ス
吾其本末輕重ハ序ヲ失スルヲ怪シムナリ。官員
貴族ハ内行終ニ修マラザルハ、縱令國富シ、兵
強ク、雄ヲ海外ニ奮フト、雖也、猶文明ハ國ト稱ス
ル下能ハザルベシ。況ヤ國未タ富マズ、兵未ダ強

一部ノ大學
章句ニシテ
足ル

一層更ニ妙

カ、ラザル者ニ於テ乎、吾儕偏ニ願フ、高官貴族ノ
輩、深ク修身ハ、治國ノ本タルヲ知リ、今ヨリ翻
然トシテ、其行ヲ改メ、言テ天下ノ則ト為リ、行テ
天下ノ法ト為ラントヲ、民ハ師尹ヲ瞻ル者之ヲ
尊敬シ、之ヲ親愛シ、風俗隨テ改マリ、禮義隨テ正
シク、文明ノ光、四隣ニ輝クキハ、豈獨其身ハ榮ハ
シナラハ、國ハ幸モ亦之ヨリ甚シキ者ハ無カル
ベキナリ。

○想像論

津田真道

想像ハ瞑目思想ハ間、吾人觀見スル所ハ形象事

命意頗奇

歴ニシテ、頗ル蜃氣樓ト相類似ス。夫ノ蜃氣樓ニ
空中實ニ樓閣アルニアラズ。而シテ歴々其形象
ヲ現ス。蓋シ氣鏡中ノ射影ナリ。吾人ノ心裏絶テ
天地萬物人間百般ノ事蹟アルニアラズ。然レ氏
瞑目思想ノ間、靚見スベカラザル者ナシ。即チ心
中ノ射影ナリ。其邦訓オモカケ想影ハ謂ヒナリ。
世人或ハ想像ヲ訓ジテオモヒヤリト云フ。誤ナ
リ。オモヒヤリハ古語ニ於テハ排悶ハ義ニシテ。
俗語ニ於テハ怒ノ意ナリ。想像記臆ト異ナリ。記
臆ハ曾テ經歷シタルヲ記シテ忘レザルナリ。

此篇綴密西
周先生論
似タリ

巴孔子知

想像ハ未ダ曾テ經歷セザル所ノ事ヲ新ニ結構
造營スルナリ。但シ曾テ經歷シタルト多少關
係セザルハナシ。故ニ記臆ト關係尤親密ナルノ
之。和漢ノ小説演劇等。大抵作者ノ想像ナリ。歐洲
各國ニ於テ尤有名ナル詩人ノ作詩モ、概スルニ
皆想像ナリ。各國大古ノ事蹟古老ノ相傳ナル所
ハ記臆ト想像ト相混淆ス。高天原、黃泉、龍宮等ノ
事。及ビ天竺、埃及、希臘、羅馬等ノ古傳。皆荒唐不經。
信スルニ足ラズ。是古人ノ想像ナルバナリ。但仲
尼書ヲ刪リテ、斷。然。唐。虞。以。前。ノ。事。ヲ。採。ラ。ズ。豈其

讀入前禮
名家故山卷之二
十四

ノ實事ニアラズ、教トスルニ足ラザルガ為カ、此
叟。眼識高シト謂フベシ、釋迦耶蘇俱ニ天堂地獄
ヲ説ク、是レ其ノ想像偶符合スル所以ナリ、達磨
者流、一撃之ヲ打破ス、其見亦高シト謂フベシ、然
ラバ則孔子達磨ハ絶テ想像ヲ用キズ、豈老子ノ
所謂至人夢ナキ者ノ類カ曰ク孔子達磨ハ大ニ
想像カヲ用ウル所ノ人トス、孔子ノ易ヲ説ク、達
磨ノ坐禪觀法、皆一種ノ大想像ナリ、但其想像ス
ル所、稍高ク稍古人ト異ナルノミ、後世記誦詞章
五行性理ノ學、精粗淺深ノ別アリト雖モ、大抵想

關龍ノ米利
堅ヲ發見ス
モ皆是想像
ノカヲ

像ニアラザルハナシ、但清人ノ考証、西洋迄今確
實窮理ノ學、想像ヲ用ウルヲ寡シトス、然レハ夫
ハ地道ハ橢圓ヲ知リ、新行星ハ發明スル等、百般
ハ窮理、概スルニ其初ハ想像ニ出テ、後証左明確
ナルニ至テ始テ天律ト為ル者ナリ、人倫ノ道經
濟ノ學ニ於テ、法則ト稱スル者、其初ハ想像ニ出
ル者多シ、若夫レ之ヲ事物ニ徵シテ、証左明確ナ
レバ、其法則、不易ノ天律ナリ、若シ事物ニ徵シテ、
証左乖戾スレバ、其法則ノ實理ニ違ヘルヲ知ル、
然ルニ物理ノ如キハ、証左見易ク、心理ノ如キハ

讀書八
十五

孔子耶蘇
後人ノ談議
免レテ

証左知リ難シ、是形氣以上ノ學ニ於テ、諸說ノ紛々トシテ、一定シ難キ所以ナリ。夫ハ彗星、日食等當然ハ理ナルモ、猶且種々無根ハ臆說アルヲ免ハズ、況ンヤ、心理ハ知リ難キ者ニ於テ、ヤ、黑人ハ色黒ヲ尚ブ、是レ其ノ白人ニ化シ難キ所以ナリ。我日本ノ人種ハ黃種ナレド、黃色ヲ尚マズ、却テ皮膚ノ白キヲ喜ブ、蓋シ天性ナリ。故ニ本來洋風ヲ喜ブノ天性アリ。我國鎖國ノ政ヲ變シテヨリ、茲ニ僅ニ十餘年、我國人民被服器具ヨリ、文物制度ニ至ル迄、百般ノ事皆洋風ヲ欽慕ス、以テ我

西洋數百年
來練磨經驗
事一朝遠
之ヲ做シト
難イカナ

說ノ啻ニ想像ノミニニアラザルヲ徵スベシ。然ルニ被服器具ハ、一目瞭然絶テ疑ハ容ルニキ無シ。文物制度ニ至リテハ、數百千年ノ練磨經驗ニ依リ、數百千萬ハ議論ヲ重ネテ、今日ニ至ル者吾人ハ容易ニ窺ヒ知ルベキモ、ハニアラズ。暹羅人氷ヲ知ラズ、阿非利加内地ハ人白皙人ヲ知ラズ、偶智者アリ、氷ト白皙人トハ事ヲ聞キ、之ヲ想像ス。ト雖モ、殆ト瞽人ハ大象ヲ想像スルニ類スト。云ハ、目今ノ所謂開化者流、自由ノ理ヲ知ラズシテ自由ヲ想像シ、法律經濟ノ學ヲ講窮セズシテ、漫

項門一針

佛律、英法、米政等ヲ論シ、其甚シキニ至リテハ、佛蘭西民法ノ翻譯ヲ採テ、直ニ我大日本帝國ノ民法ヲ創立セントス。殆、暹羅人ハ氷ヲ誤リ、阿非利加内地民ハ白人ヲ想像スルニ、異ナラザルベシ、豈亦危カラズヤ。

○國民氣風論

西 周

余嘗テ歐洲ノ史ヲ讀ムニ、其中屢亞細亞風ノ奢侈、又亞細亞風ノ專擅等ノ語アルヲ見ル。此語ニテ亞細亞ト指スハ、印度河以西ノ事ニテ、素ヨリ蔥嶺以東ニ及フニ非ズ。然ニ他太尼里以東ハ概

深奥ノ論宜ク沈吟シテ其味ヲ知ルベシ

何時一洗

シテ此ノ如キ風ノ行ハル、テ常ナリ。蔥嶺以東ハ人種モ異ニシテ又一段ノ區別アルガ如シ。而メ其中又大小數個國ニ分ルレハ、從テ國民ノ氣風モ異ナラザルヲ得ズ。然ニ概シテ之ヲ言ヘバ、所謂專擅ノ風行ハレ、其下ニ立ツ國民ノ氣風ハ、君ヲ尊ヒ臣ヲ賤ハト云フ奉政ノ範圍ヲ出デザルナリ。就中我カ日本國ノ如キハ、神武創業以來、皇統連綿茲ニ二千五百三十五年、君上ヲ奉戴シテ、自ラ奴隸視スルハ、之ヲ支那ニ比スルニ猶甚シトス。況ヤ中世以來天下武臣ハ手ニ落チ、封建

支那ノ豪傑ノ支那才故ニ猶自主自由ノ氣像アリ

我邦ノ如キハ
太神家ノ自
本國ノ人
ヲ故ニ更ニ
自由自主ノ
態ヲ見ズ

續今昔名家文抄卷之二

八制ニ變シテ、茲ニ殆ト七百年以來天下舉テ兵卒政治トナリ、家來ニ家來アリ、奴隸ニ奴隸アリ、武士横行シテ、餘三民ハ切捨ニ罹リ、天下ハ政令ハ、則軍中隊伍ハ法令タリ、民ハ氣魄焉ガ身屈ナラザルヲ得ンヤ、維新廢藩以來、大ニ此制ヲ鼎革シ、以テ當今ノ制ニ馴致スト雖モ、日尚淺、且政府ノ政、寛裕ニ歸シ、世間ノ論說、稍自主ヲ尊フト雖モ、氣魄ノ本然ニ復セザルハ、猶依然タリ、然ニ今歷史上ノ沿革ニ就テ之ヲ考フレハ、未ダ遠ニ之ヲ望ム可ラザル者アリ、何トナレハ老者ハ竟ニ

豹變ノ望ナリ、而メ少者ハ唯面ヲ革メタル耳ナレバナリ、況ヤ此氣風タルヤ、獨リ政治ニ源スル者ノミニ非ス猶他ニ源由ノ以テ之ヲ鼓動スル者アリ、即チ其一ハ孔子ノ春秋一變メ、黃門公ノ學派トナル者、其一ハ浪華ノ契仲阿沙黎ノ三十一文字一變メ、本居宣長ガ馭戎慨言トナルナリ、故ニ我國民ノ氣魄身屈伸フルト能ハザル者ハ、一ハ歷史上政治ノ沿革ヨリ來リ、一ハ不東ナガラモ理學上ノ觀察上ヨリ來ル者ニシテ、民心ニ浸淫シ、其堅キ膠膝ノ如シ、如何ツ一旦ニシテ、

續今昔名家文抄卷之二 十八

之ヲ改ムルヲ得ンヤ。今此昇屈伸スルヲ能ハス。
廢制ニ安ハジテ、自ラ、奴隸視スルハ氣風ヲ謂テ、
政治上并ニ道德上ハ氣風ト名ク、而シテ又別ニ地
質上ノ氣風ト名クル者アリ、是レ其ノ源地質ニ
在リヤ否ハ、敢テ推究シ、得テ名狀スルニ非スト
雖モ、其源委、遠ニ明カナラザルヲ以テ、姑ク此ノ
如ク名狀スル者ナリ、今我國人民ノ性質ヲ概シ
テ、之ヲ論スレバ、忠諒易直ナリト謂フベシ、忠諒
故ニ之ヲ歴史上ニ徵シテ、源氏カ骨肉相殘スル
等ノ事アルモ、慘酷ナルヲ支那ナドニ比スレバ、

殊ニ少シトス、易直故ニ之ヲ歴史上ニ徵メ、足利
義詮ノ徒アリト雖モ、翻覆詭譎ノヲ亦支那ナドニ
比スレハ少シトス、故ニ此ニツノ者ハ、人々ニシ
テ、之ヲ求メハ悉ク然リト謂フ可ラズト雖モ、概
シテ我國風民質ヲ論スレバ、蓋シ此美質アリ、本
居宣長ノ式島ノ日本心ヲ人間ハ朝日ニ香フ山
櫻花ト詠ゼシハ即チ此易直ノ質ヲ以テ國民ノ
氣風ニ烙記ヲ居エタル者ニテ、流石ニ夫レ者タ
ケ能名狀シタル者ト謂フベシ、然ルニ、此忠諒易
直ト云フ徳ハ、美德ナリト雖モ、其蔽タル亦大ナ

讀入禮記家文以長
十九

是等細密理
論先生ノ長
所他人ノ及
サル所ナリ

ルニアリ、仔細ハ此忠諒ト云フ義ノ反體ハ、慘酷
ニテ、此忠諒慘酷ト横ニ並ヘハ、字ハ下ニ、智愚ト
云ハ二字ヲ置ク時ハ、愚ハ字動モスハ、忠諒ハ
御供トナリ、智ハ字動モスハ、慘酷ト相伴ハ、故
ニ忠諒ハ良キ性質ナリト雖モ、所謂學ヲ好マザ
ハハ、其蔽ヤ愚タルヲ免カレザルナリ、又易直ト
云ハ、德ハ反體ハ、頑曲如此キ熟字ナケレバナリ、
此二義ヲ横ニ並ヘ下ニ、權利ハ字ヲ正中ニ書キ、
而ハ後ニ其下ニ失ハ易ハ、失ハ難シト、並ヘテ加
ハル時ハ、易直ハ方ニ易ハ字ヲ置キ、頑曲ハ方ニ

此處文章兩
漢合流ト云
フベシ

難ハ字ヲ下ス、ト常例タレバ、易直ハ性ハ權利ヲ
失ハ易シ、與シ、易シ、等ハ蔽アリトス、然ルニ此地
質上ハ性質ト前ハ政治并ニ道德上ハ氣風トハ、
相待テ成ル者ニシテ、兩相合シテ我日本國民ハ
現在ハ氣風トハ成リタルモハナリ、然ルニ上ニ
專制ノ政府アリテ、下ニ此人民アリ、專制ノ君上
ヲ奉戴シ、自ラ、奴隸視シ、易直以テ其身ヲ行ヒ、忠
諒以テ其事ニ任スル時ハ、專制ノ政府ニ在テハ、
極メテ都合ノ宜キ最上ノ人民ノ氣風ト謂フベ
シ、故ニ士大夫者ハ三代相恩ハ仇討モ仕ルベク、

智威并立

戰場ニ臨ミテハ、花々敷討死モ仕ルベク、又三民
タル者ハ泣ク免ト地頭ニハ勝ハヌ者ナリト云
ヒ、主親ハ無理ヲ言フ者ト思ハト、畢竟御維新興
革ハ大業ナド、斯ク容易ニ出來タルハ、聖上聖德
ハ然ラシムル所ト雖モ、此氣風ハ助ケル所居多
ニシテ、所謂其角ヲ崩スカ如クメ、稽首シタル者
ナリ。故ニ此國風、民氣、專制政府ノ下ニ在テハ、極
最上々、無類飛切ノ氣風ナレド、外國ノ交際始マ
リ、國內ニテ、束縛ノ綱ヲ緩ルメ、智カヲ以テ威力
ニ勝ツノ浮世トナリテハ、此氣風ハ、即チ福澤先

奉還ノ士族
依頼ノ言責
其ノ無氣無
力未シ氣愈
ルヲ知ラス

生ノ所謂無氣無力ノ人民ナリ、況ヤ民撰議院ナ
ド興ヤムト欲スルノ日ニ至テハ、第一ニ差支ト
ナルハ此氣風ナリ、然ルニ此氣風ハ之ヲ人身ニ
譬フレバ、天然人身健剛ノ有様ニ非ズ、猶深宮ニ
長シタル長袖袂袴ハ免ハ如シ、其儘宮中ニ置カ
テハ、是ハニテ可ナル可レド、此長袖袂袴ヲシ
テ一旦家祿奉還セシメ、鋏モ取リ、鋤モ握ルベキ
世トナリテハ、此ハ如ク公廢衰弱ハ體ニテハ、成
業實ニ覺束ナキガ如シ、故ニ是ニハ牛肉ヲ喰ハ
セ、四肢ヲ強壯ニシ、天然人間ノ有様ニ復セザル

讀ハ禮記卷之二十一
三十一

論語集注卷之二十一

願與之聞

常人能之話
スル所未タ寧
スル能ハサルモノ

可ラズ。然ルニ此氣風ハ右論スル如クナレ氏。概
シテ言ハ、莊子カ所謂混沌未タ穿タザル者ニ
テ此混沌ヲ穿テ、縦ヒ七日ニシテ死スル氏所謂
天然健康ノ有様ヲ得セシムルニハ、余カ見ル所
ニテハ、法學ヲ関ケニ在リ、其方法ノ如キ余別ニ
腹稿アリ他日將ニ説ク所アラントス。
○◎人ノ説ヲ答ム可ラザルノ論

福澤諭吉

世ハ中ニハ下戸モアリ、上戸モアリ、人カハ思ハ
所一様ナル能ハズ。下戸牡丹餅ハ議論ヲ主張ス

一句上ラ取メ
下ラ起ス

正論回環

ト雖氏、其カ能ク天下ハ酒屋ヲ禁ズルニ足ラズ。
上戸、酒屋ニ左祖スト雖氏、其議論ヲ以テ全國ハ
餅屋ヲ廢スルヲ能ハズ。人間萬事皆斯ノ如シ。必
ズシモ、我意ヲ主張シテ、萬人ハ説ク一直線ハ如
クナラシムル可ラズ。揃ヒハ浴衣ハ之ヲ製シテ、人
ニ與テ可シト雖氏、人カハ説クシテ、浴衣ハ如ク
揃ハシムルハ甚カ難シ。且天下ハ議論ヲ一様ナ
ラシムルハ、寧初ヨリ議論ナキニ如カズ。譬ヘバ、
世ハ婦人ハ顔色ヲシテ、悉皆一様ナラシムナバ、
醜美ヲ撰バハ論モ無用ナルガ如シ。醜アハハコ

論語集注卷之二十一
二十二

續古今體名家詩話卷之二

奇語

ハ美モアルモハナハ。夫ハ揃ヒハ浴衣モ全國ハ揃ヒトナラバ、其模様ヲ撰ブニ及バズ。浴衣ハ揃ヒニテモ、ドテラハ揃ヒニテモ、或ハ裸體ハ揃ヒニテモ、差支ナカル可シ。語ニ云ク、學者ハ國ノ奴雁ナリト。奴雁トハ、群雁野ニ在テ、餌ヲ啄ムキ、其内ニ必ス一羽、首ヲ揚ケテ四方ノ様子ヲ窺ヒ、不意ノ難ニ番ヲスル者アリ。之ヲ奴雁ト云フ。學者モ亦斯ノ如シ。天下ノ人夢中ニナリテ、時勢ト共ニ變遷スル、其中ニ獨リ前後ヲ顧ミ、今世ノ有様ニ注意シテ、以テ後日ノ得失ヲ論ズルモノナリ

自任甚大

快絶

故ニ學者ノ議論ハ、現在其時ニ當テハ、功用少ナク、多クハ後日ノ利害ニ關ルモノナリ。甘キ今日ニ居テ辛キ後日ハ、利害ヲ云フ時ハ、其議論必ズ世人ノ耳ニ逆ハザルヲ得ズ。之ガ夕メ或ハ虚誕妄說ノ譏ヲ招クヲアレバ、其妄說ナルモノハ、唯今世ハ耳ニ觸ルテ妄說ナルハ、其取ト其說ト孰カ正シキヤ、今日ヲ以テ裁判ス可キニ非ズ。取ハ人ハ取ナリ、說ハ我說ナリ、決シテ一樣ナル能ハズ。假ニ天保年間ニ當テ、斷髮廢刀ノ說ヲ唱ル者アラバ、如何ン虚誕妄說ト云フモ、尚餘リアラ

讀八禮名歌文以卷之二

續今體名家文抄卷之二

東方彌爾氏

シ。左レ氏。今日ハ半髮帶刀ノ者ヲ見テ却テ是之
ヲ怪ムニ非ズヤ。然バ則今日ノ虛誕妄説モ亦後
年ノ通論タルヲアラン。然ルニ今ノ識者世ノ議
論ヲシテ強ヒテ時勢ニ合ハシメントスルハ其
望ム所蓋シ世間ニ學者ナキヲ欲スルモハハ如
シ。世人西ニ走ルハ學者モ亦西ハ説ヲ唱ヘ世人
東ニ向ヘバ學者モ亦東ヲ譽ルハ學者ハ著書ハ
恰モ俗間流行ハ仕事ヲ吹聴スル引札ニ異ナラ
ズ。斯ノ如クシテハ學者モ無用ハ長物有レハ無
キガ如シ。今ハ世ハ識者ハ此ハ有様ヲ企望スル

札ト稱ス可
キモノアリ

本意

カ。余輩ハ却テ是ヲ驚クナリ。世間ノ風ニ合ハズ
トテ人ノ議論ヲ排スル者ハ結局世ノ通論ヲ誅
ルトテ是之ヲ咎ムルノミニテ其議論ノ事實ニ
當ルト否トハ捨テ問ハザルナラシ。其證據
ニハ世間ニ行ハル、トヲ譽メ之ヲ咎メラレタ
ル者ハ甚タ稀ナリ。針ホドノ切ヲ棒ノ如クニ譽
立テ一毫ノ美事ヲ山ノ如クニ吹聴シ甚シキハ
人ノ失策ニ理屈ヲ付ケ何トカ筆ノ先キニテ書
廻セバ其評判ハ假令ヒ虚ニテモ評判ヲ受ケタ
ル者ハ知ラヌ顔ニテ聊カ得意ノ色ヲ為スモノ

讀ハ禮名家文抄卷之二 二十四

續今體名家技抄卷之二

アリ、左レバ人ノ議論ヲ答ルト、答メザルトハ、唯
其譏譽ノ事實ニ當ルト、否ラザルトハ、捨テ、問
ハザルナリ、若シ事實ニ質シテ、其當否ヲ論ズル
キハ、先ヅ夫ノ人ヲ譽メテ、實ニ過ギタルモノヲ、
答メザル可ラズ、實ニ過ルモノハ、悉皆是レヲ虚
誕妄説ト云ハザルヲ得ズ、世上ニ其類ハ、澤山ナ
リ、能ク、心ヲ留メテ、是之ヲ探索ス可シ、余輩又世
ノ人ニ忠告スル一事アリ、都テ人ノ説ヲ駁スル
者ハ、其説ヲ排シテ、之ヲ止メントスルノ趣意ナ
ラン、之ヲ止メントスルハ、世ニ其説ヲ聞ク者ヲ

辨論漢如

シテ、少ナカラシメントスルノ趣意ナラン、然ル
ニ、世ノ中ノ人情ハ、必ズシモ、美ニシテ、耳目ニ快
キモノ、之ヲ好ムニ非ズ、或ハ恐ル可ク惡ム可
ク嫌フ可ク驚ク可キモノヲ見聞セント欲スル
モノニテ、只管之ニ耳目ヲ傾ケ、或ハ唯評判ノミ
ヲ聞テ之ニ走ルヲ多シ、譬ヘバ、見世物ハ、如シ、十
全ハ、美婦好男子ヲ、見世物ニスルト云フモ、之ヲ
見ル者ナシ、故ニ、其物品ニハ、常ニ珍禽異獸奇怪
ハ物ヲ主トシ、其奇怪愈甚クシクシテ、恐ル可ク、
驚ク可キハ、噂アハバ、見物ハ、客モ、亦愈夥多シ、尋

讀今體名家技抄卷之二

正論出沒
轉自カラ一
意

常ノ蚯蚓ト猫ヲ見セシト云フモ誰カ錢ヲ出シ
テ其木戸ニ入ル者アラシ唯兩頭ハ蛇ト巨大ナ
ル虎ヲ看板ニ掛ケ其評判高くシテ始テ客來モ
アルナリ著書モ亦斯ノ如シ人ノ著述ヲ駁シテ
其意見ヲ咎メ之ヲ惡ミ之ヲ罵リ之ヲ嫌フ一兩
頭ノ蛇ノ如ク之ニ驚ク一巨大ノ虎ノ如クスル
片ハ其評判ノ善惡ヲ問ハズ其事柄ノ虛實ヲ糺
サズ世ノ人ハ必ズ其書ヲ求テ之ヲ見タシト欲
スルモノナレバ初ニ其議論ヲ駁セントセシ片
ノ趣意ニ立返リテ之ヲ考ルルハ其說ヲ世ニ止

名論

ムル一能ハズシテ却テ其流布ヲ助ルナリ古來
世ニ絶版ノ書ノ流行スルモ此人情ニ基キタル
モノナリ且前ニモ云ヘル如ク議論ハ人ノ意見
ノ外ニ顯ルハモノナリ若シ此議論ヲ書ニ著ス
一ヲ禁ゼバ之ヲ口ニ云フベシ若シ其口ヲモ封
ジテ言フヲ得ザラシメナバ心ニ之ヲ思フ可
シ此ノ心ニ至テハ自身ヲ除ク外凡天地ノ間ニ
之ヲ制ス可キカアルヲナシ政府ノ命ヲ以テ禁
ズ可キニ非ズ世論ハ喧シキガタノニ止ハ可キ
ニ非ズ唯之ヲ口ニ言ハザルハ其書ニ記サハル

禁ズ可キ一非
ズシテ禁ズルハ
何ヤ

讀論體名
二十六

古語借得テ
東收敏也
捷甚シ

此篇余日嘗
新聞ノ編輯
クリシ時社
長青江秀三
陸奥公論
リトテ似ヒタ
ルモノリ當時
矢口勇ノ名ヲ

以テ發見セリ
看者幸ニ余
カ編選ニ疑
カレ

萬國無比ノ
帝國自カラ
萬國無比ノ
事アリ

ハ、然ルト雖、心ニ思フ所ヲ言ハズシテ、其思
ハ、ザルトテ、言フハ、即是偽ナリ、故ニ著書ヲ禁ジ、
或ハ人ハ議論ヲ駁シテ、強ヒテ、世ハ意見ヲ一様
ナラシムント、欲スル者ハ、所謂天下ヲ率ヒテ、偽
ヲ行ハシムルモノナリ。

〇〇神國論

陸奥宗光

竊ニ惟ルニ、我カ日本帝國政府ハ、君主專制ハ政
體ニシテ、我天皇ハ綿々連々神胤相承ル、無上無
邊ハ權カヲ有シ給フ皇帝ニシテ、萬國其比ナシ
ト云ハ可シ、茲ニ戊辰ノ維新以來、稍々其政制ヲ

變革シ、下民ニ與ルニ、少ク權利ヲ以テスル如キ
モノナキニ非スト雖、未タ其舊面目ヲ改メザ
ルト多シ、我日本古昔ノ事跡ヲ案ズルニ、神武天
皇日向ノ國ヨリ龍驤シ、能ク中國ヲ克服シ、乃チ
全國人民ヲ以テ、盡ク奴隸トシ給ヒシヨリ、二千
五百餘年ノ今日ニ至ル迄、獨其遺風ヲ存ス、然リ
ト雖モ、此等ハ君主ト、人民トノ間ニ關係スル
ニテ、是類他國ニモ少シトセズ、唯我日本ノ政制
ニテ、人ニシテ神ヲ支配スルノ權アリ、乃チ天子
ノ權ニテ、人ヲ神トシ之ヲ崇ム、或ハ神位ヲ進退

讀入禮名
二十

續今體經家文抄卷之二

シ、或ハ神位ヲ與奪スルヲ得、是其專制權カハ
無上無邊ナル決シテ、他國ニ比類ナカル可シ、乃
チ吾等祖先ノ如キ如何ナル人種カ、今知ル可カ
ラズト雖モ、神武天皇ハ御代ニ方テ、總テ自己ハ
權利ヲ剝脱セラレテ、奴隸トナリタルモ、ハナレ
バ、吾等今其人權ヲ復セ、ント欲スルモ、之ヲ一朝
一夕ノ間ニ變革スルト至艱至難、如何ソ能ク其
事ヲ成サ、抑我日本ハ古來神國ト稱スル國柄
ナレバ、上天子ヨリ下庶民ニ至ル迄、神明ヲ崇尊
スルノ國法タルハ、論ヲ俟タズ、然レバ、神ハ人間

自由ノ鋒何
日カ厥制ノ
指ヲ衝突セ

ノ上ニ位シテ、之ヲ尊ム可キヲハ、上下一様ナル
可ク、縱令、天子ノ至尊ナルモ、神ニ對シテハ、其一
階ヲ讓リ玉フ可キナリ、夫レ日本ハ、古昔ヨリ天
神ト云ヒ、地祇ト云ヒ、國常立尊ヨリ、謠冊ノ二尊
天照大神ヲ始トシテ、八百萬ノ神ノリト云ヘバ、
現今日本ノ人口三千二百萬餘ニ配シテ、其四分
ノ一タレバ、凡ソ一神ニテ四人ヲ司リ給ヒ、其神
德ノ稜威ナルヲ著明ナル可シ、故ニ日本ノ人ハ、
天子ヨリ庶人ニ至ル迄、崇尊敬禮スルニハ、其神
餘リテ豈不足トセンヤ、然ルニ中古ヨリ近世ニ

想像太奇

續今體經家文抄卷之二
二十八

至ル天子ノ特權ニテ、人ヲ神トシ、給フノ例最モ多シ。歷代中ニテ天皇ヲ神トシ玉ヒシハ、姑ク論ゼズ。人民中ニテ神トナシ給フ者、一二ヲ舉レバ、藤原鎌足モ菅原道真モ、清原頼行モ、和氣清麻呂モ、豊臣秀吉モ、徳川家康モ、既ニ神トナリ。近年楠正成モ、毛利元就モ、上杉謙信モ、亦皆神トナリ。近日ニ至リ、神田明神、相馬將門ハ、神位ヲ奪ハレ、大洗少名彦カ、其跡役トナリタルナド、何ト戸長カ、區長カヲ進退スル如ク、容易ナルトニ非スヤ。而ハ日本國內ハ神社ハ中ニモ、種々ハ階級ハ立

テ、此社ヲ小ト稱シテ卑メ、甚シキハ、位階ヲ與ヘテ、某神社ハ、五位、某神社ハ、一位ナド、盡ク天子ハ特權ニアラザルモハナシ。今夫レ、吾等カ、神ヲ崇尊シ、神ヲ敬禮スル所以ノモノ、其神威神徳ノ實ニ人間ニ超然タルモノアルトヲ信ズレバナリ。所謂屋漏ニ愧ザルモノ其ノ威徳ヲ仰テ、恐懼戒慎スルノ外ニ出テズ。然ルニ我等カ此ノ如ク崇敬スル神ト雖モ、必ス天子ノ事制ニ依リテ、榮辱スト云フトキハ、天子ノ權カ餘リ甚シカラズヤ。而シテ、實ニ此管轄ヲ免ル能ハザル神ナレバ、假

讀入所體名家

昔シ曾テ昇
屈人民アルヲ
聞今日復始
テ此昇屈ノ
神祇アルヲ聞

令ハ百萬神アルモ、八千萬神アルモ、焉ゾ神國ト
稱スルヲ得ハヤ、又何ソ之ヲ崇敬敬禮スルニ足
ラシヤ、前段ニ述ル如ク吾等ノ如キ人民ハ、二千
五百餘年以來、先祖代々受ケタル、政事ノ羈束ナ
レバ、決テ一朝ニ免ル可カラザレ氏、神祇ハセメ
テ此專權ノ制ヲ脱シテ、天子ト雖氏猶其一階ヲ
譲リ玉フ可シ、左スレバ、神祇ノ威徳モ、愈々光明
ニシ、真ニ神國ノ神國タル所以トナリ、祭政一致
ノ古制ニ稱フ可シ、若シ夫レ我天子ハ生ナガラ
ハ神ニシテ、其權カ固ヨリ衆神ハ上ニ位スルモ

收得カテ

世ヲ怒リ人ヲ
罵ルノ文以テ
少年子弟ニ
似テ可カラスト
雖モ亦今日
人士ノ藥石
足レモノアリ是
余ノ此編ヲ録
スル所以ナリ

ハナリト云ハ、是我カ知ル所ニ非ハナリ。
○時勢論 桐野利秋
國家ハ形様ヲ以テ見ル可カラズ、政治ハ規術ヲ
以テ總テ可カラズ、形様ヲ以テ國家ヲ見ル木偶
物ニシテ可ナリ、規術ヲ以テ政治ヲ見ル、婦女子
ニシテ可ナリ、金粉之ヲ塗リ綺羅之ヲ飾ル、木偶
却テ美ナリ、規術惟レ恃ニ細利惟レ射ル、婦女却
務ハ、金貨ハ多費嘆スルニ足ラザルナリ、男兒出
ハル乃チ是レ憂ベキナリ、予今ノ政府ヲ見ルニ
偶物ヨリ甚キ者ヲ以テ國家ヲ守ルニ擬シ、女子

讀ハシ
豊
名
家
放
少
卷
二
三十

盤ノ指ス所
ノ人アリ

何等憤激

ヨリ拙キ者ヲ舉テ天下ヲ治ルヲ許ス、而メ金貨
ノ多費男兒ノ出デザル亦汲々トシテ惟憂フ、其
醜體實ニ見ルニ堪ユ可カラズ、而メ亦怪ムニ足
ラザル也、偶物ヲ用キ婦女ヲ舉ル者ハ、即チ偶物
ニシテ、且ツ婦女子ナハバナリ、予聞ク上ノ好ム
所、下之ヨリ甚キ者アリト、昔年支那事件未ダ平
カナラザルニ當テ、諸縣士族先鋒ヲラント願ヒ
シ者、累々少ナカラズ、實ニ笑ス可キノ甚キ者ト
云フベシ、此等ノ人ハ、國家ヲ以テ、如何ナル者ト
スルゾ、今ノ政府ハ、今ノ國家ノ大讎敵ニシテ、今

華威頓ヲ以テ
機ニ投シテ應
スル一箇詭譎
英雄ノ看ヲナ
スガ如シ此公認

ノ。蒼。生。ノ。怨。望。ス。ル。所。ナ。リ。是。故。ニ。今。ノ。政。府。ヲ。助
ケ。シ。ト。欲。ス。ル。者。ハ。今。ノ。國。家。ニ。不。忠。ニ。シ。テ。今。ノ
蒼。生。ヲ。塗。炭。ニ。苦。マ。シ。ム。ル。ニ。左。袒。ス。ル。者。ト。云。フ。
可。シ。我。是。レ。ヲ。以。テ。知。ル。今。ノ。憂。國。慷。慨。ス。ル。モ。ノ
ハ。唯。其。ノ。私。ヲ。成。サ。ン。ト。ス。ル。ニ。在。ル。ス。ミ。形。ヲ。以
テ。之。ヲ。見。ル。憂。憤。切。ナル。ガ。如。ク。情。ヲ。以。テ。之。ヲ。察
レ。バ。悲。哀。ニ。堪。ヘ。ラ。レ。ザ。ル。ガ。如。シ。而。メ。其。實。憂。憤
ニ。切。ナル。ニ。非。ル。ナ。リ。所。謂。其。私。ヲ。成。シ。ト。欲。ス。ル
者。ハ。試。ニ。米。國。ノ。華。威。頓。ヲ。見。ヨ。英。國。ノ。逆。政。ヲ
施。ス。ニ。當。テ。敢。テ。奔。走。セ。ズ。又。周。旋。セ。ズ。口。ヲ。開。カ

讀ハシト豊
名家
故以
三十一

見ト云フ可シ

以上今ノ政府ハ虚飾ヲ以テ成レ故ニ之ヲ助ケ慷慨用テ和聖頓等ノ如ク善ク善ク善ク起ル能ハサレ論ス

ズ、足ヲ舉ス、潜ニ時ノ至ルヲ待ツ、而シテ其起ルニ當テヤ、向フ所皆破レ、戦フ所必ズ勝、而シテ其兵タル、携フ所皆農具工器ニ過ギズ、之ヲ強英ノ熟兵ニ比セバ、啻ニ螻蛄ノ斧、六龍ノ車ニ當ルノミニ非ザルナリ、形ヲ以テ之ヲ見ル、萬々勝ツ可キノ理ナシ、而シテ勝ツ所以ノモノ、唯時ニ乘ズルヲ以テナリ、時至ラザレバ、則チ朽ナテ已マン、至レバ、則チ手ニ唾ハテ起ツ、憂國者ハ策ヲ素ヨ、小宜ク此ハ如クナルベシ、復カ怪ムニ足ラザルナリ、天下麻ノ如ク亂レ、怨嗟ノ聲四海ニ滿ルニ及ン

今日ノ公言此言ニ負カザルヤ

其佩肝ヲ見ル如ク

テ、而後ニ發ス、發スルニ豫メ成敗ヲ論ゼズ、唯此舉タルヤ實義舉ナリ、盡スモ亦此時ナリ、死スルモ亦此時ナリ、成敗天ニ在リ慮ルニ違アラザルナリ、肺肝先ツ定リ、而シテ臣子ノ義務ヲ盡ス、故ニ應ズル者、響ノ如ク來ル者、潮ノ如ク、事是ヲ以テ成ル、今ノ慷慨スル者ハ、皆輕々薄々、毛ノ如ク、紙ノ如ク、見ル所、極メテ小且拙、唯一時過激ノ論ヲ借り、斬姦ヲ謀ルモ真ニ非ズ、恢復ヲ議スルモ真ニ非ズ、機ニ會テ身ヲ惜ミ、事ニ臨テ生ヲ貪ル、其志幾多ハ、勲功ヲ立テ、而シテ何ハ官ニ就キ、何ハ位

讀入前豊名家取以卷三十三

名言名錄然
ルニ逆政ノ字
何代ヲ指ス
知ラス

引証比諭愈
出テ愈妙

ニ上リ、榮華ハテ人ニ誇シ、ト欲ス。而シテ人ニ逢フ、
毎ニ切齒扼腕、喋々大事ヲ吐露シ、傍ヲ人無キガ
若シ、故ニ一事トシテ成ルナク、却テ人ノ嫌疑ヲ
來シ、遂ニ首領ヲ保ツ能ハザルヲ致ス、實ニ憫笑
ニ堪ヘザルナリ、逆政ノ下宜ク門ヲ閉ヂ、氣ヲ養
フベシ、何ゾ慷慨スルヲ為シヤ、尺蠖ノ伸ント欲
ス必ズ先ヅ其身ヲ屈ス、鷲鳥ノ擊ント欲ス必ズ
先ヅ其翼ヲ收ムト、茲ニ人アリ曰ク我ハ何ノ某
ナリ、我父曾テ某ニ殺サル、父ノ讎共ニ天ヲ戴ク
可ラズ、我故ニ年來讎ヲ求ムルト雖、未タ其所

立志社員宜
ク一通ノ馬
テ座右ノ銘
ナス

在フ知ラズ、悲憤堪フ可カラズ、我讎某、假令九地
ノ下ニ藏ルトモ、何ゾ能ク終生我ニ逢ハザルヲ
得ンヤト、拔刀高聲呼テ市中ヲ横行スル者ニシ
テ、我未ク曾テ其志ヲ遂クル者アルヲ聞キ、彼
ハ立志社ハ如キハ、何等ハ狡猾ゾ、何等ハ醜體ゾ、
虚聲ヲ張テ、人心ヲ引ク、引カルハ者ハ愚素ヨリ
論スルニ足ラズト雖、亦豈憫笑ナラズヤ、苟モ
真ニ志ヲ國家ニ致サント欲セバ、田間山中ニ閑
居シ、我固有ノ英氣ヲ養ヒ時機ノ來ルヲ待ツベ
シ、何ゾ奔走狼狽、政府ハ義務ヲ奪却スルヲ為シ

讀ハシ
三十三

已一政府、不可トシ又是等民權社、負ノ為ス所ヲ非トス公ハ所謂一セヲ不可トスル者カ

天下ヲ治ムルハ、政府ノ義務ナリ。臣子ノ吻ヲ容ル可キ所ニ非ス。而ノ今ノ憤發慷慨スル者ハ、皆拔カ高聲市中ニ横行スル者ノ比ニシテ、其事業ハ見ル亦政府ノ義務ヲ奪竊スル者ナリ。我是等ハ人ヲ見ル憫笑ニ堪ヘズ。又憤罵ニ堪ヘザルナリ。且夫レ社ヲ結ンデ志ヲ合セ、共ニ國家非常ノ變ニ應ゼント欲スル者、亦笑フ可キナリ。志ノ合フト合ハザルトハ決シテ、土地ノ遠近ニ由ルモノニ非ズ。唯其時機ノ來ルト來ラザルナルナリ。我立テ而ハ人立ツ。此レ是レハ志ハ合フト云フ。

今日天下人民公ノ志ニ合ハズ

人起テ、我起タズ。此レ是ヲ志ハ合ザルト云フ。志一ナレバ見ル所必ズ一。見ル所一ナレバ志必ズ一。亦何ゾ地ノ遠近ト人ノ多少ヲ問ハンヤ。我胸中ノ見己ニ定ル。亦何ゾ奔走周旋ヲ用キンヤ。空シク相會スルハ日ハ花鳥風月ヲ談シ、勤テ人ノ束縛窘蹙スル能ハザル所ニ投ジ。今古英雄ノ進退事業ヲ熟察シ、兵機ノ要領舉動ニ注目シ。以テ機會ヲ待ツベシ。若シ幸ニシテ萬民能ク安堵シ、今ハ怨嗟ハ聲ヲ以テ、鼓腹ハ音ニ變ゼバ、實ニ國家ハ幸福ニハ。我輩振起ハ時ナキナリ。時ナキハ

讀八禮名家政少卷之二 三十四

以上立志社
負等虚唱
民推ノ唱ハ
虚榮ノ命
以テ官途ノ
階梯トナシ
或ハ其舉動
時機ヲ知ラ
ザルヲ論ズ

亦田間ニ朽チ果シハミ朽ルモ亦何ゾ恨ハシ
唯恐クハ時機ハ近キニ在ラシナリ或余ニ難ジ
テ曰ク此蒼生ノ塗炭ヲ見テ而シテ振起セズ恐
クハ起ル日ナカルベシ且丈夫ノ名ニ負ニ余應
テ曰否我國ノ制タル義ヲ以大トシ而シテ情以テ
之ニ次ク名義ノ在ル所水火且避ベカラズ名義
ナクシテ起ツ事成ルト雖氏義ニ於テ愧ル所今
天下怨嗟嗥泣ノ聲道ニ載ト雖モ政府ノ為ス所
ヲ奪ツテ起ツ名正シカラズ而事順ナラズ是臣
子ノ深ク恐ル可キ所ナリ助ク可キハ則チ助ク

一結雄拔蓋
世英雄氣入
ヲ襲フ快甚シ

筆墨際淡此
篇ヲ讀ム東
洋人民ノ不幸
禍ニ可キヲ覺
フ

ルニ死ヲ以テシ其助ク可カラザルニ當テ正ニ
席ヲ蹴テ立チ鋤ヲ挈ケテ起クルモノハ則和聖
頓其人ノ事ナリ豈ニ不平ノ為メニ名ヲ正義ニ
假リ蓄財ノ為ニ身ヲ官途ニ寄ス者ノ為シ得ル
所ナラシヤ紀元二千五百三十五年

◎拷問論

津田真道

天下ハ惡拷問ヨリ慘ナルハナシ古今ハ害拷問
ヨリ毒ナルハナシ桀紂ハ無道暴虐ハ魁ナルモ
其害惡未曾テ拷問ハ慘毒ニ比スベカラズ何ヲ
以テ之ハ謂フ蓋桀紂ハ暴惡ハ一人ハ惡事ハミ

讀片體名案
三十五

續今體名家文抄卷之二

拷問ハ害ハ、數十百千、法官ハ惡事ニシテ、其害數十百世ニ及ブ、其慘毒ヲ蒙ル者、豈ニ啻桀紂一時ハ暴怒ニ觸ルハ、者ハ比ナランヤ、夫罪犯ハ、固ヨリ暴惡ナリト雖モ、亦一匹夫ノミ、檢官、帝命ニ據テ、之ヲ捕縛シ、法官政威ヲ逞シウシテ之ヲ推鞠ス、貴賤懸隔、權柄復ニ殊ナリ、縱令絶テ拷訊ヲ用ウルナキモ、匹夫賤劣威嚴ニ懼伏シ、心膽轉倒、其理ヲ伸フルヲ、夫ノ民法ノ訟庭ニ於テ原被告人互ニ其權利ヲ主張スル、尤明白ナルガ如キヲ能ハズ、動モスレバ、冤屈ヲ免レ難シトス、然ルハ况

況ニ一層

証左

知テ行ナク之ヲ弱ト云フ玉乃ハ、心ヲ弱ナドナカラシ

ハ、ヤ、拷問ヲ用キテ、之ヲ強服セシムルニ於テ、ハ、玉乃權大判事、亦曾テ、拷問ヲ廢セント欲スルノ説アリ、其害ヲ語リテ曰ク、若シ拷問ヲ用キテ強テ之ヲ推鞠セバ、勲舊相將モ我之ヲ有罪ニ陷レシト、掌ヲ反スヨリ易シト、嗚呼怖ルベキカナ、拷問ノ害ヤ、故ニ人ノ曾テ罪ナキモ、一旦法司ノ疑フ所ト為ル時ハ、勢遂ニ冤罪ニ屈セザルヲ得ズ、蓋シ拷問ノ苦、堪フベカラズ、常人ハ乃チ思ヘラク、其拷問ニ苦ハ、ハ、寧冤罪ニ死セシト、嗚呼慘ナルカナ、拷問ノ害ヤ、吾地球ノ至高峰

讀入而體名家文抄卷之二

拷問論中此ノ山水風致ノ人ヲ動スアリ是余ガ筆墨慘淡ノ評ノ下ス所ナリ

ヲ雪山ト云フ、亞細亞ノ中央ニ在リ、此山ヨリ南西ノ民ヲ印度日耳曼人種トス、西シ海ヲ踰テ、阿美理駕ニ至ル、此山ヨリ北東ノ民ヲ蒙古支那人種トス、東シ海ヲ隔テ、米利堅ノ土人、蓋亦人種ノ變種ニ屬ス、方今日耳曼種ノ國ニ拷問ナシ、蒙古種ノ民ハ概スルニ拷問ヲ免レズ、嗚呼雪山何ノ山ゾ此一大幅畫ヲナシ同ク此地球ノ人ニシテ、又何ゾ蒙古種民ノ不幸ナルヤ、余ノ壯ナルヤ、曾テ印度海ヲ涉ル、印度諸島ノ民ハ所謂麻來人種、恐クハ又蒙古種ノ變種ナリ、彼等方今英蘭各

不了語ヲ以テ一問ヲ發シ否ヲ以テ斷案ヲナス文大ニ風味リ各國交際ニ云ニ關セズ拷問宜ク廢ス可キナリ

國ノ所轄ニ屬シ、亦拷問ノ厄ヲ免ル、阿非利加ノ民、所謂黑種ト雖モ、亦歐米諸國ノ管轄ニ屬スル者、亦拷問ヲ免ル、豈ニ是人種ハ然ラシムル所カ、曰ク、否、知識、開明ノ致ス所ナリ、拷問ノ害、天下古今之ニ比スベキナシ、然ラバ則拷問果シテ廢スベカラザルカ、曰、否、拷問廢セズハバアハル可ラザルナリ、拷問ヲ廢セズハ、遂ニ歐米各國ト車ヲ並テ馳騁スベカラザルナリ、拷問ヲ廢セズハ、彼我同權ノ條約ヲ結ブベカラザルナリ、拷問ヲ廢セズハ、歐米各國民ノ吾國內ニ居ル者ヲシ

讀ハシ禮名取
三十七

國カ振ハズ
法律備ハラ
ズ交際上遂
ニ彼是權利
ノ大差別ヲ
ナス獨リ裁
判事件ノミ
ナラザルナリ
嘆息々々

テ。我。法。律。ノ。下。ニ。置。ク。ベ。カ。ラ。ザ。ル。ナ。リ。
○ ○ 拷問論ノ二 津田真道

歐米獨立ノ各國和親通商ノ交際上ニ於テ、互ニ
盟約章程ヲ締立セザルハナシ。彼此ノ權利同一
ニシテ優劣アルナシ。彼國ノ民此國ニ來レバ、
必ス此國ノ法律以テ之ヲ保護シ、政令以テ之ヲ
撫治スルヲ固ヨリ論ヲ俟タズ。然ルニ我帝國日
本ハ歐米諸國ト條約ヲ締立スルヤ、外國人民ハ
我國內ニ於テ法ヲ犯スニ於テ、我國ハ法律以テ
之ヲ罰スベカラズ、乃彼我同權ハ條約ニ非ズ、到

主意

彼民羨ム可
シ我民憫ム
可シ

底、我國體ヲ虧損スル所ナシト謂フベカラズ、然
リ而メ今遽ニ之ヲ改正スベカラザル所以、奈何。
曰ク、彼此ハ刑律同ジカラズ、殊ニ治刑ノ方法迥
ニ異ナレバナリ。彼此ノ刑律相同ジカラズト雖
モ、亦大小異ニシテ、氷炭懸隔スル者ニアラズ。但
彼民ハ自由ヲ得テ我民ハ束縛ヲ免レザルノミ。
此事獨國法政事上ニ於テ然ルノミナラズ、人民
日用彝倫ノ際ニ於テ亦然リトス。譬バ我ニ於テ、
子孫祖父母、父母ヲ毆ツハ斬、改定律例懲役十年、
子孫ヲ故殺スルハ、徒、彼ニ於テハ、甲ハ徒若シク

讀ハシ禮名家文以卷之二 三十八

人身保護律
相定マル日
オ多株鎖鍵
繩天下人民
ヲ待ッ東方
諸國何ハ其
ノ無情ナル

ハ、禁錮ニシテ、乙ハ死ナルノ類ナリ。故ニ此等ノ
事ニ於テ、小シク折衷ヲ加フル時ハ、彼此ノ刑律
略相同ジキ者ト為ルベシ。治刑法ニ至リテ、彼我
迥ニ異ナリ、例ヘバ彼ニ於テハ、綴令罪惡ヲ犯ス
者アルモ、其証跡ヲ得ザレバ、治刑官吏之ヲ捕縛
スルコトヲ得ズ、我ニ於テハ、綴令未タ其証左ヲ得
ザルモ、檢官視テ疑シトスル者ハ、直ニ之ヲ捕縛
スルコトヲ得ベシ。又彼ニ於テハ、綴令惡事ノ証左
アルモ、其事刑律上ニ明記シテ、罪惡トセザレバ、
罪ニ處スベカラズ、我ニ於テハ、綴令七刑律ニ明

彼是并論明
鏡ヲ把テ妍
醜ヲ照スガ
如シ

記セサルモ、其事タル不應為ノ事ナレバ、直ニ之
ヲ罰スベシ。又彼ニ於テハ、概スルニ所謂誓士〔ダ
ユーリ〕アリ民中ヨリ選舉セラレテ審理ニ參
ス、而シテ誓士刑律ニ拘ハルコトナク、平心公正ニ判
定シテ其人罰スベシト謂ハザレバ、法官刑律ヲ
按シテ之ヲ罰スベカラズ、我ニ於テハ、未タ曾テ
誓士ノ設アルコトナシ、又彼ニ於テハ、証左明確罪
狀疑フベカラザルニ於テ、之ヲ刑典ニ處シ、強テ
罪人ノ口供ニ拘々タラザルナリ。是彼ニ於テ、絶
テ拷問ヲ要セザル所以ナリ、我ニ於テハ、綴令七

續八市禮
三十九

罪証十分ニ明確ナルモ、罪人ノ口供ニアラザレバ、決放スベカラザルヲ以テ通法トス。是我ニ於テ、拷問ノ止ムヘカラザル所以ナリ。其弊ヤ、縱令ヒ他ニ確証ナキモ、拷問ヲ用キテ強テ首服セシメ、之ヲ罪ニ致スニ至ル其害ヤ、遂ニ無辜ノ人ヲ冤罪ニ陥ルニ至ル。夫レ罪人ハ概スルニ惡人ナリ、惡人ノ惡ヲ掩ヒ、刑典ヲ遁レント欲ス、是其常情ナリ。故ニ口供實ヲ得ント欲ス、亦甚難カラズヤ。縱令罪人ナリト雖モ、一旦悔悟自首スレバ、其罪ヲ減免ス蓋シ萬國ノ通法ナリ。故ニ罪人推問

ニ因テ實ヲ供シ、既ニ悔悟スル所アレハ、亦其罪ヲ減免スルモ理ニ於テ不可ナル所ナシ。故ニ、禊祓、懺悔、善ニ歸スル者ヲ宥免スルハ、各國ハ神道佛乘ニ於テ取ル所ナリ。然レ氏其之ヲ國法ニ推及シ難キハ、論ヲ竝メズ。然リト雖モ、今惡人ニ責ルニ、善人ノ心術ヲ以テシ、之ヲシテ強テ首供セシメテ、以テ之ニ刑戮ヲ加ヘント欲ス抑モ亦何ノ義ゾ。是、雪山ハ西ハ人種ハ、雪山ハ東ハ法律ニ服スルヲ肯モザル所必ナリ。罪惡既証明ナレハ、之ニ刑ヲ加ヘテ可ナリ。彼惡人死シテ黃泉ニ

續今體名家抄卷之二
四十

教法ノ關スル所官吏猶之ヲ侵ス亞細亞一般ノ惡弊

到リ、或ハ地獄ニ墮ツ、惡人ノ首供スルヲ要セズ。是教法上臆想ノ事ニ屬スト、雖モ今之ヲ治刑條例中ニ採取セシム、亦不可ナリトセズ。況ンヤ、歐米各國ハ通法ニ於テヲヤ証左ニ據リテ曲直ヲ判スルハ、民法裁判ノ通法ニシテ、我帝國日本ノ聽訟舊法モ、歐米ノ新法ト大ニ逕庭アルヲナシ抑モ原告被告人各其非ヲ掩ヒ其理ヲ陳シ、加フハニ、代言人之ヲ脩飾ス、只其言ヲ信ゼバ、何ハカ曲、何ハカ直、聽ク者豈ニ惑ヒナキトヲ得ハト、是民法裁判ハ証左ヲ要スル所以ナリ、然ルニ治刑ノ

名上言辯セテ以上拷問論了ル以下只其詳ヲ論スルノミ

法ニ至テ、專ラ証左ニ據ラズ、縱令証左ノ明確ナルアリ、罪人ノ口供ニ據ルニ非レバ、絶テ其罪ヲ定ムベカラズト、豈不通ノ習慣法ナラスヤ、乃チ、此不通ハ習慣法ヲ永存シテ、以テ彼我同權ノ條約ヲ締立シ、我法律ヲ以テ、外國自由ハ民ヲ束縛セシムトス、亦難ハカナ、或問テ曰ク、罪人ノ口供ヲ要セズ、專ラ証左ニ據リテ處決シ、萬一証左誤ルヲアル時ハ、奈何、曰ク、彼ニ於テハ、獨民法裁判上ニ於テ所謂控訴法アルノミナラズ、刑法裁判上ニモ亦控訴法アリ、罪人一度處刑ノ行告ヲ受

貴人禮記卷之二 四十一

ケタル後、其罪ニ服セザル所アレバ、其々期限内ニ於テ、更ニ上等裁判所ニ控訴スルヲ得ベシ。是司法官吏萬一ノ過誤ヲ豫防スル所以ニシテ、綴令証左誤マルヲアルモ、覆審ニ因テ明白ニスルヲ得ベシ、然リ而シテ、今我帝國ニ於テ、歐米各國ト彼我同權ハ條約ヲ改定シ、外國民ハ我國內ニ居ル者ヲシテ、我國法ヲ遵守セシムト欲セバ、先ツ、拷問ヲ廢スベシ、拷問ヲ廢セント欲セバ、先ツ、治刑法ヲ改定スベシ、蓋歐米各國皆所謂治罪法アリ、今之ヲ折衷シテ、我帝國相當ノ治刑

條例ヲ定立セシト、恰モ大寶律ノ唐律ニ倣ラヒ、新律綱領ノ唐明清ノ三律ト、幕府ノ律例ヲ折衷セシガ如クセバ、何ノ難キトカ之アラシ、余ガ司法ニ官タルヤ、曾テ松本、水本、清岡ノ諸君ト、法朗西治罪法ニ依リ、我帝國ノ治刑法ノ艸案ニ從事シテ、頗ル拮据黽勉ス、余ガ免官後、其事亦中止スト、余迂陋拙劣固ヨリ其任ニ任ヘズ、其事ノ中止スル亦何ソゾ惜ムニ足ラン、左院、又ハ明法寮中有力ノ議法官、其人ニ乏シカラズ、竊ニ望ムハ、ハ諸君更ニ憤發努力カ、速ニ我帝國至當ノ治刑

先生惜ムニ
足ラト雖モ
天下豈ニ惜
マランヤ

續
禮
部
奏
議
書
卷
之
二
四十一

同願同願

此段孟子ヲ讀ムニ似タリ

條例ヲ草定奏上シ、我大日本天皇陛下ハ特詔ヲ垂ル、斷然拷問ヲ廢シ玉ハシト、豈ニ一大美事ナラズヤ、或曰ク拷問ヲ廢セザレバ、彼我同權ノ條約ヲ結ブベカラズ、又外國民ノ我國ニ居ル者ヲシテ、我法律ノ下ニ置クベカラザルコトハ、既ニ命ヲ聞ク、然レモ拷問ヲ廢セズンバ、遂ニ歐米各國ト車ヲ竝ベテ馳騁スベカラズト謂ヘルハ、解スベカラザルナリ、抑我帝國ノ歐米各國ト拮抗スベキハ、專ラ人民ノ文化ト、政府ノ兵力ニ關スルコトニテ、拷問ノ有亡ニ關係アルコトナレ、曰ク人民ノ

弱ヲ轉ジテ強トナスハ易シ野ヲ轉ジテ文トナスハ太ク難シ

文化果テ上進スレバ、拷問等ノ惡法、跡ヲ竄シテ、我帝國ヲ逸去センコト論ヲ嫉タズ、縱令ヒ兵力今ヨリ數層ヲ加フモ、野ヲ轉ジテ文ト為ラズ、拷問等ノ惡法ヲ墨守シ移ラザレバ、歐米各國ト車ヲ竝ベテ馳騁セント欲スト雖モ、彼豈之ヲ首肯セハヤ、或又曰ク、只管証左ニ由テ、人ヲ罪スルニ於テ、若シ証左ヲ缺ク時ハ、罪人或ハ僥倖ヲ得ベシ、可ナランカ、曰ク、余之ヲ歐洲ノ法律家ニ聞ク、曰ク、縱令百罪人ノ僥倖ニシテ、罪ヲ免ル、者アリトモ、一無辜ヲ罪スルコト勿レト、又古ノ支那人ノ

至論確論今
日本人古
支那人云云
先生宜ク教
唆律ニ當ッ
ベシ

聯作體

一句ノ論

曰ク其不幸ヲ殺サンヨリハ寧無經ニ失セヨト
嗚呼今ハ日本人ニシテ古ハ支那人ニ如カザル
可ケンヤ且今我國拷問ノ法アリ子豈罪人ハ僥
倖ニシテ罪ヲ免ルハ者絶テ無シト思フカ亦思
ハザルハ甚シキナリ

◎死刑論

津田真道

刑ニ死刑アルハ猶罪犯審問ノ法ニ拷問アルガ
如キカ拷問ノ其法ヲ失シタルハ余業已ニ之
ヲ論ゼリ今請フ死刑ハ刑ニ非ル所以ヲ説明セ
シ夫レ刑ハ人ノ罪惡ヲ懲ス所以ナリ懲ルトハ

續今體答家文抄卷之二

第一節

何ゾ曰ク犯人惡事ノ罪業タル罪業ノ畏ルベキ
ヲ知リテ之ニ懲リ之ヲ悔ヒ善道ニ復歸スルナ
リ刑法ノ目的宜シク此ノ如クナルベシ然リ而
メ死刑ハ苟モ之ヲ施行スレバ則人命ヲ絶ツ豈
ニ之ヲ懲悔ノ法トスベケンヤ縱令其人懲悔ス
ル所アルモ其人已ニ死シ其心魂其體ニ在ラズ
之ヲ奈何ゾ善道ニ歸シ善行ヲ人間ニ修ムルニ
アラシヤ故ニ曰ク死刑ハ刑ニ非ズト立法ト云
ヒ司法ト云フ吾人ノ之ヲ立テ之ヲ司ル所ナリ
吾人元來人ヲ活スノ力徳ナク而メ擅ニ人ヲ殺

續今體答家文抄卷之二 四十四

續今體名家抄卷之二

第二節

スノ法ヲ制行ス。豈之ヲ有道ノ事ト謂フベケン
ヤ。到底殺人ノ刑ハ、暴惡ノ舉タルヲ免カレザル
ナリ。刑典ニ曰ク、人ヲ殺ス者ハ死ト果テ暴ヲ以
テ暴ニ易ルナリ。或曰ク、死刑ハ一人ヲ刑シテ千
萬人ヲ懲スナリト。抑モ我邦人口三千餘萬、年々
死刑ニ處セラル、者、概スルニ千人ヨリ少シト
セズ。蓋シ數百千年之ヲ懲ラシテ未、曾テ懲リザル
カ。然リ而シテ歐米各國ヲ合スレハ、其人口固ヨリ
我ニ數倍セリ。其死刑ニ處セラル、者、數國ヲ合
シテ、一歲僅ニ數人ニ過ギズ。何ゾ兇惡人ノ我ニ

第三節

多クシテ、彼ニ少キヤ。蓋シ刑律ノ彼此同シカラ
ズト、間或ハ全ク死刑ヲ廢シタル國アルト、又亦
謂、開化ハ度同シカラザルニ因ルハ、復讎ハ古
來之ヲ善事トセリ。然レモ決シテ善事ニ非ズ。却
テ大惡事ナリ。國家今日謀殺律ヲ以テ復讐人ニ
當ス。慘酷ニ非ルナリ。復讐ハ實ニ百方謀搆讐人
ヲ殺スナリ。故ニ復讎律ノ改定ハ吾人慣習ニ依
リ、或ハ之ヲ論駁スル者ナシトセズト雖モ、必畢
間然スベカラザルナリ。但文明開化、能ク復讎ヲ
嚴禁シテ、猶此ノ死刑ヲ存ス。余ガ解スル能ハザ

續今體名家抄卷之二 四十五

辟論妙々

第四節

第五節

ル所ナリ。復讎ヲ禁ジテ、猶死刑ヲ存ズルハ、猶酒
 ヲ禁ジテ、之ヲ罰スルニ、酒杯ヲ以テスル如キカ
 或ハ曰ク、刑ノ主旨ハ吾人同社ノ害ヲ除ク所以
 ナリ。故ニ暴惡ノ人ハ、之ヲ殺シテ、以テ吾人同社
 ノ害ヲ除クナリト。此言一理アリ。然レ氏能ク此
 主旨ヲ達スベキ者、死刑ヲ除テ他ニ求ムベシ。所
 謂流刑ナリ。而シテ流刑ハ却テ毒ヲ他邦ニ移ス。猶
 白圭ハ水ヲ治ムルゴトク、隣國ヲ以テ壑トスル
 ハ害アリ。蓋能ク刑ノ主旨ニ適シテ施行スベキ
 者ハ、唯徒刑。若クハ懲役アルノミ。尚書ニ曰ク、刑

此一語尚書
 中ニ入ルモ辨
 スベカラス

尚早ノ二字
 用キ得テ何
 等ノ滑稽

ヲ無刑ニ期スト其旨趣善美ト謂フベシ。然レ氏
 支那人能ク之ヲ空言ニ論ジ未ダ之ヲ實地ニ施
 ス能ハズ。余ハ則刑ヲ死刑ナキニ期ス。然レ氏歐
 米文明ノ各國死刑ヲ廢スルノ説出テヨリ。既ニ
 百年彼ニ在テモ、猶未タ全ク行ハルニ至ラズ。
 矧ンヤ我東方ニ於テヲヤ。蓋シ唯之ヲ將來ニ期
 スルノミ。今日ニ在テ此論ヲ發ス。今自ラ其尚早
 キヲ知ルト雖モ、聊ベツカリヤ氏ノ擧ニ倣ヒテ。
 我邦人ハ睡魔ヲ驚カサント欲スト云フハミ。

偶續今體名家文抄卷之二 終

偶續今體名家文抄卷之三

土居光華編選

◎◎人心一致ノ説 神田孝平

余此程一友ノ宅ヲ訪ヒシニ、偶々例ノ議論家打
寄リテ、世事ヲ論セシ最中ト見ヘ、予ガ入り來ル
ヲ見テ、先ツ寒暖等ノ常套數句ヲ述ルヤ、否ヤ、突
然トシテ問テ曰ク、天下ノ人心ヲ一致セシムル
道如何、予曰ク、天下ノ事ハ、姑ク差置キ、夫ヨリ先
ヅ諸君ニ問フベキ事アリ、譬ヘバ爰ニ一ツノ大

風流洒落ノ
筆ヲ弄シ經
濟有用ノ事
ヲ寫ス絶妙
好辭ト云フ
ベシ

一句主意

先ツ一問ヲ
設ク妙

奥様御姫様
ノ一語添得
テ彩色アリ

ナル座敷アリテ。其内ニハ大名モアリ。町人モアリ。士モアリ。農民モアリ。坊主神主ノ類モアリ。職人日雇稼ノ類モアリ。奥様モ御姫様モ女郎モ藝者モアリ。一口ニ云ヘバ。貴賤老若男女打混シ。百餘人計モ。偶然ニ集マリタル者アラバ。諸君善ク其人心ヲ一致セシメ。タマハシヤ如何。満座ノ人相顧ミテ對フル者ナシ。予又問テ曰。諸君之ヲ一致セシムルハ趣向ナクハ。恐クハ亦天下ハ人心ヲ一致セシムルハ策ナカラシ。僕ハ竊ニ一説アリ。諸君善ク僕ガ言フ所ヲ聽キタマハシヤ。満

貴賤老若男
女云々韓文
公獲麟解ノ
犬豕豺狼云
々ノ句調ニ
似タリ
以上一致ス
ベカラザル態

座皆曰願クハ足下ノ説ヲ聽カン。其時予容ヲ改メ。之ニ語テ曰ク。僕ヲシテ右ノ座敷ニ長タラシメバ。先ヅ試ニ一人ヅ。其欲スル所ヲ聽カン。左スレバ。大名ハ國ヲ富マサントカ。堺ヲ拓カントカ。云ハシ。町人ハ金ヲ儲ケントカ。云ハシ。農民ハ年ノ豊ナルヲ願ハシ。士ハ文武トカ。功名トカ。立身出世トカ。云ハシ。貴賤老若男女皆夫々ハ志願ヲ言ヒ立テ。諺ニモ言フ通り。人心ハ同ジカラザル。下。其面ハ如クニシテ。速モ一致スベキ氣色ナカラハ。然レ氏。僕ハ夫レニ一向頓着セズ。段々ニ

讀
禮
記
卷
之
三
二

續金瓶梅詞話卷之三

問ヒ亂シ。早朝ヨリ、始メ晝モ過ギ、最早八ツ時頃
ニモナリタラント。オモホシキ頃ニ至リ、衆人ニ
對シテ云ハン、諸君ノ意、千差萬別ニシテ、俄ニ承
リ盡シ難シ。斯クテハ、今少シ手間モ取ルベクト
存ズレバ、時刻ニ付、粗飯ヲ呈スルナリトテ、兼テ
用意シタル膳ヲ差出サバ、衆人必ズ之ヲ喫セン。
此時自分ニモ亦退テ、之ヲ喫シ、稍姑クシテ、衆人
悉ク喫シ、終リタル頃ヲ窺ヒ、再ビ出テ之ヲ諭シ
テ云ハン、我諸君ノ意ヲ見ルニ、區々ニシテ、同ジ
カラズ。然レ共、食ノ事ニ於テハ、何レモ異論ナキ

以上食

ニ似タリ、如何ニヤト問ハバ、衆人各答何如ニア
ラシ。予以為ラ久、衆人必ズ異論ナシト云ハン。果
シテ然ラバ、食ノ一事ハ、既ニ一致セルナリ。次ニ
又、衆人ニ對シ、我諸君ノ衣服ヲ見ルニ、綿ア、木
綿ア、麻ア、毛織ア、仕立、方色、合ニ至テモ、亦
皆同ジカラズ。然レ氏、此内一人、裸體ナル人ナリ。
然ラバ、衣服ノ事ニ於テモ、亦各異論ナキニ似タ
ル。如何ニヤト問ハバ、衆人亦必ズ異論ナシト云
ハン。次ニ亦タ衆人ニ對シ、諸君平生如何ナル所
ニスミ、タマフヤ、家ニ居タマフヤ、露處シタマフ

以上衣

續金瓶梅詞話卷之三

以上任

衣食住三序
此篇ノ目的

娯説破セザ
ルニアリ

ヤト問ハ、衆人亦必ズ家ニ住ムト云ハン。果シ
 テ然ラバ、衣ト食ト住ト亦一致セルナリ。夫レ衣
 食住ノ三ハ人命ノ基源ニシテ、萬業ノ大本ナリ。
 今此大本既ニ一致セシ上ハ、其他ノ諸事一致セ
 ザル者ナカラズ。縱令其間ニ一二ノ一致セザル
 者アルモ、是猶食ニ甘辛ハ別アリ、衣ニ縑木綿ハ
 別アルガ如ク、心ニ全局ニ害ナシ。是我人心ヲ
 一致セシムルハ、法ナリ。諸君ニ、如何思ヒ、如何
 マヤト問ハ、坐客皆ハ、必ク聞ニカ、眠ヲ催セシ
 様子ニ、大ニ答フル者ナカハ、我亦吾説ハ當ルヤ

否ヤヲ知ラズ

◎世ノ富ハ良友ヨリ大ナルハ無キノ説

中其村敬宇

四友

一友

友モ亦タ類多シ。勢利ノ友アリ、貨財ノ友アリ、歡
 樂ノ友アリ、功名ノ友アリ。以上ノ友ハ、良友ト云
 フベカラズ。良友ハ真友ニシテ、偽友ニアラズ。以
 上ノ友ハ、勢利貨財歡樂功名ヲ以テ、一時相合フ
 モノニ過ズ。譬ハ、屍ハ在ル處ニ、烏鵲ハ集ルガ
 如ク、羶臭ハ在ル處ニ、蠅蚋ハ聚ルガ如ク、穀ハ在
 ル所ニ、鼠ハ集ルガ如ク、屍肉盡ハバ、烏鵲散シ、羶

珠盤ニ走ル

讀ハ、禮名、家、世、以、卷、三、四

一貴一賤交
情乃チ見ル

共ニ貪難ヲ
共ニスベシ
共ニ安樂ヲ

臭盡レバ、蠅蚋去リ、穀盡レバ、鼠去リ、是故ニ勢利ノ友ハ、爾ニ權力勢位アレバ、繩々トシテ來リ、權勢ノ在ラン限リハ、附從スベシ、爾若シ權勢去ラバ、此ノ友ヤ、復タ爾ヲ顧ミズ、貨財ノ友ハ、爾ニ金銀貨財アレバ、續々トシテ至リ、世富ノ在ラン限リハ、屬從スベシ、世富去レバ、此ノ友ヤ、復タ爾ト相于カラズ、功名ノ友ハ、功名ヲ同シク、分タントスル間ハ、手足ノ如ク、腹心ノ如ク、其ノ功名既ニ得ルニ及ンデハ、往々競フテ、各上トナラントシテ、或ハ裂背相視ルニ至ル、此ノ友ハ、始々暫ク、友ニ

共ニスベカラズ

一以神寵

シテ、終リニ久ク敵トナルト多シ、歡樂ノ友ハ、其風流相與シ、花月同ジク、賞スルハ、沈湎佚遊ニハ勝ルベケレド、要スルニ一時ニ過ズ、興味盡レバ、情好亦タ索ルナリ、若シ夫レ、眞友ハ、爾ノ心ト交ハルモノニシテ、爾ノ形ニ交ハルニ非ズ、心ハ神物ナリ、財貨權力等ハ、形物ナリ、爾ノ心ハ、爾ト一生俱ニ在リ、爾ノ財貨權力ハ、虚浮ノ物ナリ、儻來ノ物ナリ、時ニ來リ、時ニ去リ、或ハ有リ、或ハ無シ、爾ノ心ニハ、神智アリ、神德アリ、藝文ニ通ジ、技巧ニ習ヒ、學識ニ廣キハ、爾ノ神智ニ由ルナリ、天道

續々トシテ至リ、世富ノ在ラン限リハ、屬從スベシ、世富去レバ、此ノ友ヤ、復タ爾ト相于カラズ、功名ノ友ハ、功名ヲ同シク、分タントスル間ハ、手足ノ如ク、腹心ノ如ク、其ノ功名既ニ得ルニ及ンデハ、往々競フテ、各上トナラントシテ、或ハ裂背相視ルニ至ル、此ノ友ハ、始々暫ク、友ニ

教法ニ深キ者ニ非ルヨリハ此言ヲ為シ得ザルナリ亦此言ヲ解ス能ハザルナリ

ヲ敬シ。真神ヲ愛シ。人類ヲ惠憐シ。善事ヲ行フヲ好ムハ。爾ノ神徳ニ由ルナリ。爾若シ。富シ。千金ヲ累ヌルヤ。爾ハ神智毫末ヲ加ヘズ。爾若シ。貴萬乘ヲ極ムルヤ。爾ハ神徳微塵モ増カズ。爾若シ。刑苦戮辱ニ遇クヤ。爾ハ神智一釐ヲ失ナハズ。爾若シ。貧賤難厄ヲ受ルヤ。爾ハ神徳一點ヲモ減ゼズ。爾ノ心爾ト一生俱ニ在ルノミナラズ。爾ノ心ハ死シテ朽ズ。永久不滅ナルモ。ノナリ。此ノ心ト心ハ相知リ。相親ム者ヲ良友ト云フ。即チ真友ナリ。此ノ真友ハ。形ヲ以テ交ハラズ。故ニ形物ノ去來

孟子曰ク天下ニ王タル與リ存ビマ

束住

以テ。友誼ノ厚薄ヲ為サズ。故ニ此ノ真友ナルモノ。一タビ相合フヤ。神智ハ互ニ相ヒ資益スルヲ務メ。神徳ハ。互ニ相勸勉スルヲ求メ。共ニ斯世ニ在ルヤ。已ヲ益シ。人ヲ利シ。斯世ヲ去ルヤ。相愛スルノ真性。必ズ無窮ニ存スベシ。嗚呼此ハ友ハ。共ニ一世ハ。富貴ヲ受クベク。共ニ一世ハ。貧賤ニ居ルベク。共ニ萬世ハ。富貴ヲ受クベク。共ニ萬世ハ。貧賤ヲ免カルベシ。説テ此ニ至レバ。當ニ知ルベシ。此ノ如キ良友ヲ得ルハ。豈ニ貨財權勢ノ形物ヲ得ルニ勝ラズヤ。世ハ富ハ良友ヨリ大ナル

續命禮名家說以卷之三

アタルノ義ニテ、總テ已ニ敵スル者ヲ指スノ語ナリ、虜賊等ノ字ハ、支那人ガ已ヲ尊ビ、人ヲ惡ムノ慢語ナリ、蓋シ支那ノ文字中ニ、本邦ノアタニ適合スルノ語ナシ、故ニ姑ク、虜賊等ノ字ヲ假リテ、之ヲ填ルト雖、其實ハアタノ語ノ正義ニ非ルナリ、和名抄ニ強盜海賊ノ字アリテ、共ニ其訓ナキヲ見テ、之ヲ知ルベシ、平家物語、太平記、等ニハ、天子ニ敵スル者ヲ朝敵ト云フ、不熟ノ字面ナレ、氏、差々名實相稱フノ語ト云フベシ、後世ニ至リ、總テ天子ニ敵スル者ヲ指シテ、賊ト云フ、日本

漢文撰倣
弊一ニ何
此ニ至ルヤ

史、外史ノ如キハ、原書ニ賊ト稱セザル者ヲ改メテ、賊ト曰フニ至ル、蓋シ支那人ノ陋習ヲ承ケテ、自ラ覺ラザル者ナリ、賊トハ、或ハ人ノ物ヲ盜ミ、或ハ人ヲ殺シ、或ハ人ヲ劫ス者ヲ云フ、語ニシテ、天子ニ敵スル者ヲ指シテ、言フ語ニ非ルナリ、然ルニ、天子ニ敵スル者ヲ指シテ、總テ賊ト云フハ、人君獨裁國ノ風習ニテ、人主ヲ過尊スルヨリ起ル所ノ陋語ナリ、支那人ノ驕誇自尊ナルハ、邦人ノ嗤笑スル所ナリ、然ルニ、此賊ノ字ハ、支那人ノ偏見ヲ襲フテ、之ヲ改ムルヲ知ラズ、亦異トス

是レ暴君時
主ノ多キ所
以

讀ハ禮記家範以卷之三
ハ

江藤前原豈
三將門上同
一視スベケ
ンヤ

轉論愈具

ベキ者ナリ。邦人多ク朝敵ヲ稱シテ、賊ト為シ、謂
ヘラク。之ヲ以テ名義ヲ正スト。余ハ是ヲ以テ却
テ名義ヲ失フ者ト思ヘリ。凡ソ、猫ヲ指シテ、猫ト
云ヒ、犬ヲ指シテ、犬ト云フ。是ヲ、名義ノ正ヲ得タ
リト云フベシ。若シ、猫ヲ指シテ、犬ト云ヒ、犬ヲ指
シテ、猫ト言ハバ、豈名義ハ正ヲ得タリト云フベ
ケンヤ。今賊ヲ為サミル者ヲ指シテ、賊ト云フ。何
ヲ以テ是ニ異ナランヤ。然レモ、天子ニ敵スル者
ハ、皆賊ニ非ズト云フベカラズ。天子ニ敵スル者
ノ中ニモ、賊ト稱スベキ者アリ。賊ト稱スベカラ

政府ニ抗セ
ント欲シ失
敗賊トナル
モノ迄來太
ク多シ是レ
此篇ヲ作ル
所以カ

天子ヲ助ク
ル賊古今最
モ多シ人皆
察セザルベ
カラズ又恐
ルベカラズ

ザル者アリ。或ハ天子ト威權ヲ争ハント欲シ、或
ハ人君ノ暴政ヲ遏メント欲シ、或ハ人君ノ難苦
ヲ救ハントシ、或ハ意見ノ異ナルヨリ、政府ニ抗
セント欲スルノ類ハ、皆賊ト稱スベカラズ。唯人
ノ貨財ヲ盗ミ、無罪ノ人ヲ殺シ、民ノ患ヲ為ス者
ハ、是ヲ賊ト稱スベシ。故ニ、天子ニ敵スル者ニモ、
賊ト稱スベキ者アリ。天子ヲ助クル者ニモ、亦賊
ト稱スベキ者アリ。昔亞米利加人ノ英國ニ叛ケ
ル。近年合衆國南部ノ其北部ニ叛ケル。或ハ其君
ニ敵シ、或ハ其政府ニ敵セル者ナリ。邦人ヲシテ、

續古今圖書集成
刑名典
卷之三
九

其ノ稱スル
所ニ因ニ其
名ヲ書スル
ハ正當ト雖
モ叛民暴徒
彼自ラ皇帝
ト稱スル如
キハ史筆亦
斟酌ナカル
カラス

其事ヲ記セシメバ、必ズ叛人ヲ稱シテ、賊ト云フ
マシ、然ルニ、英國ノ史ニ、亞米利加ノ叛民ヲ稱シ
テ、アメリカン(亞米利加人)ト云ヒ、米國ノ史ニ、南
部ノ叛國ヲ稱シテ、コンフェデレートト云フ(コン
フェデレートトハ、盟約ノ義ナリ、南方ノ諸州、連合シ
テ政府ニ叛キ、自ラコンフェデレートステートト
稱セシニ由リ、直チニ其稱ヲ用ヒシナリ)嘗其心
ヲ居ク下、公平ナルハ、非ズ、亦記事ハ實ヲ得
ルハ者ト云フ、朝敵ヲ稱シテ、賊ト云フハ、外
國ヲ稱シテ、夷狄ト云フト同シク、共ニ智識狹隘

何ソ前キニ
ハ傲ニシテ
後ニハ恭ナ
ルヤ

其理ヲ問ハ
ズ、其事ヲ尋
ズ、只強ル
ニ賊徒暴徒

ハ致ス所ナリ、十年以前迄ハ、外國ヲ稱シテ、英美
墨夷ナド稱セシガ、今日ハ雲泥ハ遠ニシテ、或ハ
歐米ハ文明國、又ハ西洋開化ノ諸國ト稱スルニ
至ル、然ルニ、近日ノ書史中、猶朝敵ヲ稱シテ、賊ト
云フ者アルハ、何ゾヤ、蓋シ、今日ニ當リ、外國ヲ稱
シテ、夷狄ト為スルハ、交際上ノ紛紜ヲ起シ、國ノ
禍害ヲ生ズルモ、測ルベカラズ、然レバ、外國ニ夷
狄ノ字ヲ廢セシハ、人智ノ開クルニ由ルト雖モ、
一ハ他國ノ交際ニ由ル者ナルベシ、朝敵ト如キ
ハ、古人ハ已ニ枯骨ト為リ、令人ハ盡ク降伏謝罪

續今體答家文抄卷之三
十

テシテセハ
暴徒賊徒ハ
却テ會社ニ
光彩ヲ得ル
ニ至ラン

今日ノ新聞
記者及著作
者讀ミテ
懸死スベシ

奇突人ヲ驚
ス

セシ者ナハバ賊ト云、盜ト云、唯命ハ、
ナリ、然レモ、虚心平氣以テ、其事情ヲ察ス、舊來ノ
陋見ヲ脱シ、萬國ノ公正ノ道理ニ依據シテ、之ヲ
考フル、凡ハ、賊ノ字ヲ以テ、朝敵ニ加フルハ、實ニ
不適當ナルナルベシ、若シ史筆ヲ執ル者、意ヲ此
ニ注ギ、朝敵ニ賊ノ字ヲ加フル、ナク、ハ、是ヲ
以テ邦人智識ノ一進歩ト稱シテ可ナルベシ、
○ ○ 秘密說
如此キ題號ヲ掲ゲ、其主論ハ如何タルヲ論ゼ、
ス、人々其心裏貪知的、ハ、性ヲ攪動シ、見シト欲シ、

遂是先生本
色

聞カシト欲シ、其秘密タル如何ヲ知ラント欲シ、
其意思ヲ發揮スル、猶痛痒ハ撫搔ヲ要スルガ
如シ、初頭一目下、其取ニ足ラザルヲ知ルト雖モ、
愚駭自棄ハ人ニ非ルヨリハ、意ヲ惹テ措ク能ハ
ザラシムル者、人ノ性則然リ、故ニ秘密ノ二字ハ
却テ強ク人ノ貪知性ヲ揮擯シ、一層其注意ヲ倍
セシムル者ナリ、古人既ニ是ニ於テ其機計ヲ施
ス者アリ、藥ニ家傳奇方アリ、刀槍ノ技ニ秘傳ア
リ、音樂ニ秘曲アリ、和歌ニ秘訣アリ、兵法ニ秘書
秘傳ノ陣法アリ、奧義ト唱ヘ、極秘ト稱シ、以テ專

讀ハ
十一

續今體名家文抄卷之三

謝金百足下
得テ冷絶

賣ノ具トナス。嘗テ聞ク論語與黜ハ章ハ如キ。聞
齋派ノ儒學ニ在テ其口授亦謝金百足ヲ要スル
ハ例ニ在リト。蓋シ其レヲノ公然之ヲ傳ヘシノ
バ人視テ以テ平々凡々トナシ珍奇貴重ノ量或
ハ減ズルヲ有シテ恐ルノミ故ニ其貴重スル
ハ其物ハ貴重スベキニ非ズ。ハ十襲珍重人ヲシ
テ容易ニ窺ヒ知ルヲ得ザラシムルハ方法ニ在
リ。然ルニ世既ニ開明ニ趨クニ及ンデハ人智日
ニ新クニシテ凡テ此等ノ拙策皆其巢窟ヲ覆サ
ザル者ナシ。今夫西洋電磁ノ諸術若クハ銀汞寫

正意

影ノ技ノ如キ若シ之ヲ秘密ニ附セバ人々ノ驚
愕將ク如何ナルベキ而メ之ガ理ヲ明カシ之ガ
法ヲ筆シ四洲ニ傳播シテ以シクモ顧惜スル所
ナシ愚夫痴漢モ之ヲ與カリ知ルヲ得世既ニ
此ノ如ク開明ニ向フ時ハ所謂真言秘密ノ法修
驗護魔ノ術モ將ニ其根柢ヲ失シテ其行ク所ニ
窮セントス。獨怪シム所謂秘密ナル者猶政事ハ
上ニ存スル下アリ請フ嘗ヒニ之ヲ論ゼン。蓋シ
世開明ニ至レモ秘密ノ曾テ廢ス可ラザル者ア
リ之ヲ區シテ三ツトナス。曰ク道德上ノ秘密所

續今體名家文抄卷之三 十二

當今ノ新聞
記者常事
ノ言ヲ述
好ハ名最中
ノ大罪人ト
稱スベシ

謂中。毒。ノ。言。道。ヲ。可。ラ。ザ。ル。者。ナ。リ。夫。レ。醜。ヲ。掩。ヒ。
穢。ヲ。隱。ス。ハ。禮。義。ノ。大。經。是。レ。四。海。古。今。人。情。ノ。同。
ク。然。ル。者。ニ。シ。テ。蠻。貊。猶。之。ア。ル。ノ。ミ。ナ。ラ。ズ。延。テ
禽。獸。ニ。至。ル。モ。亦。此。性。ヲ。有。ス。ル。者。ア。リ。猫。ノ。尿。ス。
ル。土。ヲ。穿。チ。テ。之。ヲ。掩。ヒ。狗。ノ。尿。ス。ル。沙。土。ヲ。踉。シ。
テ。之。ヲ。隱。ス。ガ。如。シ。故。ニ。道。德。上。ノ。秘。密。ハ。事。ノ。尤。
モ。已。ム。可。ラ。ザ。ル。者。ナ。リ。曰。ク。兵。機。上。ノ。秘。密。所謂
帷。幄。ノ。籌。策。洩。ラ。ス。可。カ。ラ。ザ。ル。者。ナ。リ。夫。レ。兵。ハ。
凶。戰。ハ。逆。固。ヨ。リ。常。道。ヲ。以。論。ス。可。ラ。ズ。古。ニ。曰。ク。
機。事。密。ナ。レ。バ。則。害。成。ル。ト。故。ニ。兵。機。上。ノ。秘。

孔夫子ノ民
之ニ由ラ使
ムベシ之ヲ
知ラ使ムベ
カラザルノ
之ハ道ヲ指
テ言フナリ
今人取テ政
略上ノト
ナスハ大ト
謬ナリ

密。モ。亦。事。ノ。已。ム。可。ラ。ザ。ル。者。ナ。リ。曰。ク。政。略。上。ノ
秘。密。所謂。廟。堂。ノ。遠。圖。廊。廡。ノ。深。謀。ノ。類。夫。レ。政。ノ
體。タ。ル。一。モ。詭。道。ヲ。以。テ。參。ス。可。ラ。ズ。必。ズ。公。明。衆
ヲ。シ。テ。之。ヲ。知。ラ。シ。メ。必。ズ。正。大。衆。ヲ。シ。テ。之。ニ。服
セ。シ。ム。ル。ヲ。要。ト。ス。然。ル。ニ。唯。外。邦。交。際。等。ノ。事。ニ
至。テ。ハ。必。ズ。明。言。ス。可。ラ。ザ。ル。者。ア。リ。所謂。秘。密。盟
約。ノ。如。キ。公。法。ノ。條。規。亦。許。ス。所。タ。リ。故。ニ。政。略。上
ノ。秘。密。モ。亦。事。ノ。已。ム。可。ラ。ザ。ル。者。ナ。リ。此。三。秘。密
ハ。世。開。明。ニ。際。ス。ル。モ。曾。テ。止。ム。可。ラ。ザ。ル。者。ト。遠
ニ。シ。テ。止。ム。可。ラ。ザ。ル。者。ト。ナ。リ。然。ニ。之。ヲ。外。ニ。シ

續今昔雜記家文抄卷之三

俗吏ノ心事
罵得テ見ル
如シ

テ、所謂政事上ニ、又一ハ秘密アリ。是則前ニ舉ク
ル所ハ藥方技術ハ秘密ニ類シテ、其故智ハ襲ク
者ナリ。曩者幕政ノ衰フレヤ、在上ノ人皆肉食糞
袴加フルニ專制ノ政體ヲ以テシ、其執ル所、以謂
ハク、秘セザレバ貴カラズ、密チラザレバ重カラ
ズ、其貴重ヲ失ヘバ則天下ヲ亡フナリト。一朝傾
覆ニ至リ、天下舉テ事何ニ由ルヲ知ラズ、是上秘
シ下密ニシテ、言壅蔽ノ情懸絶スレバナリ。維新
鼎革大ニ其舊ヲ變ズ、制ヲ明ニシ、規ヲ示シ、四目
四聰並ニ開達シ、布告日ニ下リ、天下翕然トシテ。

征臺ノ事余
日本國民ナ
キノ論アリ
發兌ス先生
ト殆ト同慨

一轉千鈞ノ
カ

修身及
神ノ教育

朝旨ノ在ル所ヲ知リ、以テ奉戴趨向スル所ヲ知
ル。豈盛ナラズヤ、然リ而ノ間亦隱然タリ。暗然タ
ル者有ルガ如シ。征臺ノ事ノ如キ、方ニ今日ニ至
リ天下僅ニ始テ我レ義務、臺藩ノ征セザル可ラ
ザルト、清ノ不義島嶼ノ曾テ彼ニ屬セザルトヲ
知ル。嗟、是亦政略上秘密ハ類カ、然リト雖モ、一人
硬斷シテ以テ天下ハ大事ヲ謀ルハ、之ヲ輿誦ニ
採テ、其同感ヲ得ルハ多ナルニ若カザルナリ。
○善良ナル母ヲ造ル説 中村 正直
余前ニ人民ノ性質ヲ改造スル説ヲ演ベ、修身及

續今昔雜記家文抄卷之三 十四

胎教支那人已之ヲ言フ西洋間明ノ論ヲ待タザルナリ

ビ敬神ノ教育、技藝及ビ學術ノ教育、此ノ二分
ノ教育ニ由ラザレバ、人民ノ心ヲ一新シ、高等ノ
度ニ進マシムル能ハザルヲヲ説キタリ。此ノ二
大分ノ教育、何レモ肝要ナレドモ、其一ハ本源ニ
シテ、其二ハ末流ナリ。技藝ノ教育ハ童子五六歳
知識漸ヤク開クル時ヨリ、之ヲ始ムルトモ未ダ
遅シト云フベカラズ、修身敬神ノ教養ニ至リテ
ハ、胎教尤モ肝腎ナリ。生レ始ヨリ其ノ耳目ニ濡
染シ、身體ヲ圍繞スルモノ、嘉言善行ニ非ルハナ
ク、絶好ノ儀範ニ非ザルハ無シ。然ルトキハ、小兒

ノ知識ノ漸ク開ケル以前ニ知ラズ。覺ヘズ。修正
ノ教及ビ天道ノ教先入ノ主トナルナリ。身體ノ
強弱ヲ以テ、之ヲ喻ヘン。母胎ニ居ル内、其母強健
ナル時ハ、其子必ズ強健ノ人トナルベシ。若シ所
謂先天ノ滋養足ラザレバ、生ル、後、何程養生ヲ
ナシ、何程良醫ノ治ヲ受ルト雖モ、其ノ先天ノモ
トヲ、當然ニ發生スルノミニテ、又別ニ加ヘ益ス
ト能ハズ。身體上ニ經驗ヲ、此理確然疑ガレベキ
ナシ。亦精神心術ニ經驗シテ、更ニ驚クベキ感化
切驗ヲ顯ハセリ。蓋シ其ノ子ノ精神心術、善惡

後生羨可

ハ大抵其ノ母ニ似ルモノナリ。其ノ子後來ノ嗜好癖習。其ノ母ニ似ルモノ多シ。然レバ。人民ヲシテ善キ情態風俗ニ變ジ。開明ノ域ニ進マシメンニハ。善キ母ヲ得ルベカラズ。絶好ハ母ヲ得レバ。絶好ハ子ヲ得ベク。後來吾輩ハ雲仍ニ至ラバ。日本ハ絶好ハ國トナルベク。修身敬神ハ教モ受クルハ人民トナルベク。技藝學術ハ教モ受クルハ人民トナルベク。知識上進心術善良品行高尚ナルハ人民トナルベシ。吾輩ハ先天教育ハ滋養足ラズ。中年碌々志業成リ難ク。窮廬ニ悲歎シ。歐米ハ開

才先生ノ如ク徳先生ノ如ク猶亦自ヲ以テ足ラズト為ルカ

明ヲ羨ヤムハ。何トゾ吾輩ハ雲仍ハ善キ母ハ教養ヲ受カセ。吾輩ハ如キ悲歎ナカラシム。ナリ。叔善キ母ヲ造ランニハ。女子ヲ教ルニ如カズ。女子ヲシテ修身及ビ敬神ノ教ヲ受シメ。男子ニ嫁シテ。子ヲ生マシメバ。其ノ子ハ胎孕セシ前ヨリ健康ナル道理。旺盛ナル精神。其身ヲ充滿シ。善徳ノ空氣ヲ喻ヒ。天道ノ日光ニ沐浴スルヲ以テ。眼目ヲ以テ智識ノ門戸トナシ。心思ヲ以テ無形ノ妙體ニ及ホシ。剛強勇果。勤勉忍耐。諸徳既ニ搖籃ニ戯ムレ。乳養ヲ受ル間ニ備ハルト云フモ。

天男を爲
ニ其愛ヲ異
ニセバ入強
弱ノ爲ニ其
權ヲ異ニセ
バ

男女同教ナ
ラズ是其ノ
智愚懸隔
ル所以

今世多ク英
雄男子爲
宛婦人ヲ携
テ見ル未ダ
純清男子ノ
純清婦人ヲ
伴ヲ見ズ

故ニ曰クオ
子多情

續古今體名家文抄卷之三

亦誇大ノ言ニハ非ルナリ。男女同權ノ弊ヲ氣遣
フハ。教育ノチキ婦人ノ其夫ニ無禮ナルヲ怕ル
ハニ過ガルナリ。天道ヲ畏レ。真神ヲ敬シ。技藝ヲ
好シ。學術ヲ嗜シ。其ノ夫ノ補助トナリ。相愛シ。相
敬スルヤウニナリタラバ。此等ノ心配ハナカル
ベシ。同權カ不同權カ其レハサテオキ男女ノ教
養ハ同等ナルベシ。宜ク二種アルベカラズ。苟モ
人類總體ヲシテ。極高極淨ノ地位ヲ保タシメン
ト欲セバ。宜シク男子婦人共ニ皆一様ナル修養
ヲ受シメ。其ヲシテ同等ニ進歩ヲナサシムベシ。

純清ナル婦人ハ。純清ナル男子ニ伴ナハザルベ
カラズ。蓋シ善徳ノ律法ハ。男子婦人ノ差別ナク。
共ニ遵用スベキハ勿論ナリ。善徳多クアリト雖
モ其中最モ主要ナルハ。愛ノ徳ナリ。詩人ブラウ
ンクノ名言ニ曰ク。真正ノ愛ハ。智識ヲ卑フト。
試ニ普天下ハ人ヲ見ヨ。天賦ハ才智最モ多キ人
ハ。眞實ハ愛情最モ深キ人ナリ。愛ハ深キ人ハ智
ハ深キ人ナリト云モ可ナリ。深愛ハ情アル婦人
ハ。其ハ夫ヲシテ。福祉安樂ヲ享シメ。邦國ハ為ニ
有用ナル事業ヲ成シハルナリ。此ノ事ハ西洋

續古今體名家文抄卷之三 十七

聖人ノ深意
後人只看出
スル能ハズ

ノミナラズ。漢土ニテモ、古賢ハ茲ニ著意シ。易ニ
乾坤ヲ首トシ、詩ニ關雎ヲ冠シ、又男女ノ正シキ
心。天地ハ大義ナリトモ云ヘリ。文王ノ如キハ、母
ニ大任アリ。胎内ノ教ヲ受ケ、后ニ賢行アリテ、内
助ノ益ヲ受ラレタリ。然ルニ支那ノ學者此ノ事
ヲ深ク推擴セズ。獨リ男ヲ尊ビ女權ヲ賤シメリ。
惑リト云フベシ。今世ノ人或ハ婦人ニ書ヲ讀シ
ムレバ、慢心スルナド、云フモノアリ。其ノ慢心
スルト慢心セザルハ、教育上ニ關係スベシ。惟物
質ノ上、伎藝ノ上ニ著意セシメナバ、我ノ知ル所

今世妻ヲ求
ム只色是
探テ宜乎其
愚子愚孫ノ
多キヤ

ニ非ズ。修身及ビ敬神ノ教ヲ受シメテ、慢心ニ至
ルコソアルベキヤ。其ニ付テハ西洋ニテモ、婦徳
ヲ重ンジ才藝ヲ次ニスル面白キ話説アリ。今茲
ニ是ヲ引カン。英國ノ詩人ボルシス嘗テ良妻ノ
事ヲ論ジテ其性質ヲ分テ十トナス。好性情(即チ
親愛四分、善キ意見二分、巧智一分、顔色美麗眉目
美好、容貌嫺雅等)一分。以上十分ノ八ナリ。引キ残
リテ十分ノ二アリ。其中ニ其妻ノ産業及ビ其ノ
交遊及ビ尋常ヨリ善キ教育才藝等ナリ。是レハ
人々各其意ニ隨ガヒ。之ヲ分ツベシ。但シ斯ニ注

學漢洋ヲ兼
又ルモノニ
シテ此一段
ノ好文字ア
リ此處先生
獨擅

上段ニ應テ
東收

意スベキモノアリ。此ノ諸ノ小部分ハ零數ヲ以
テ分ツベシ。此ノ中何ノ一ツニテモ全數ヲ取ル
ニ足ルモノアラズト。實ニ此ノ言ノ如ク。婦人ハ
第一ニ好性情ヲ重シズ。而ハ百般ハ好性情ハ一
愛ニ本ツキ生ズ。所謂深愛アルモハハ必ズ和氣
アリ。和氣アルモハハ必ズ愉色アリ。愉色アルモ
ハハ必ズ婉容アリト云ルカ如ク。諸善從テ生ジ。
是レヨリシテ才智モ生ジ。大事モ成シ得ラルベ
キナリ。此ハ好性情ノ母ヲ得テ。絶好ノ兒子ヲ造
ラシテ。現今人民ノ性質ヲ改造スルヨリ容易ナ

ル業ナルベシ。如何示シテ胎教ヲ善スル母ヲ得
ハヤ。曰ク只女子ヲ教育セヨ。ハハハハハハハハハハ
○國樂ヲ振興スベキノ説
神田孝平

老成之見

方今我邦改正振興スベキ者甚ダ多シ。音樂歌謠
戯劇ノ如キ亦其一ナリ。此事急務ニ非ザルニ似
外ハト雖モ。猝カニ辨ズベカラザル者ナハハハ。早
ク手ヲ下サハハハ。其全成ヲ期シガハハ。蓋シ音
律ノ拙キ未ダ我邦ヨリ甚シキハアラズ。古代唐
樂ヲ傳フト雖モ。纔ニ其譜ニ止マリ。其樂章ヲ傳

續今體名家文抄卷之三

本邦詩歌共
ビ行ハル、ト
難モ歌常ニ
詩ヨリ多キ
モ亦此理

士君子既ニ
俗樂ヲ卑俚
ニ堪ヘスト
為スト雖モ
士君子其
女却テ之ヲ

ヘズ、恐クハ語音通ゼズ、意義感ゼザルヲ以テ傳
フト雖モ、疾カニ亡ビシナラン、其後白拍子、猿樂
等アリ、不全ノ樂取ニ足ラズト雖モ、邦人ハ作ル
所ナルヲ以、邦人ハ心ニ適スルハ、迥ニ唐樂ニ優
ハハトス、慶元以還、民間俗樂、種々起リ、樂器モ亦
増加シ、古昔ニ比スレバ、一層善良ニ進ミタリト
云フベシ、然レハ概ニ卑俚猥褻、士君子ノ玩ニ適
セズ、是ヲ以テ方令士君子、唐樂猿樂既ニ面白カ
ラズ、俗樂又卑俚ニ堪ヘズトシ、殆ト樂ハ一事ヲ
放擲スルニ至ル、是亦惜ムベキナリ、今之ヲ振興

好ムハ何
ヤ歌テ問フ
我邦開明往
々支那ニ及
バザルモノ
アリ獨リ樂
而已ナラズ
ナリ

セシニハ第一音律ノ學ヲ講スベシ、音律ノ學ハ
格致ノ學ニ基キ、別ニ一課ヲナシ、音ニ從テ譜ヲ
作り、譜ヲ案シテ調ヲ為スノ法ナリ、此法支那ニ
ハ、略ホ之ハアリ、歐米諸國ハ殆ト精妙ヲ極ム、只
我邦未ダ聞ケズ、故ニ之ヲ講スルハ、我缺ヲ補フ
ハ道ナリ、樂器ハ和漢歐亞ヲ論ゼズ、最モ我用ニ
便ナル者ヲ擇ムヲ可トス、樂章ニ至テハ外國ノ
器用ニ適セズ、内國ニ行ハル、者亦未ダ適當ト
覺シキ者ナシ、止ムヲ得ズンバ、仍チ觀世ナリ、寶
生ナリ、竹本ナリ、歌澤ナリ、姑リ現今衆心ノ趨ク

續今體名家文抄卷之三

續全書卷之三

所ニ從ヒ、稍々取捨ヲ加ヘ、音節ヲ改メバ可ナラ
ンカ、到底我邦ノ樂章ニハ韻脚ナキヲ以テ、聽ク
者ヲシテ大ニ感發セシムルニ足ラズ、衆人追々
支那歐亞ノ唱歌ヲ聽キ、韻脚ニ一段ノ妙趣アル
ヲ知リ得バ、其趣ニ倣ヒ、邦語ヲ以テ新曲ヲ製
スルヲ亦難カラザルベシ、余嘗テ謂フ外國技藝
採用スベカラザル者ナシ、獨リ唱歌ノ法、外國ノ
儘用ウベカラズ、新曲ノ製止ム可カラザル所以
ナリ、戲劇モ亦一層改正セザル可ラズ、方今ハ芝
居ハ盛ニ過ギ、哀ニ過ギ、誕ニ過ギ、濃ニ過ギ、人心

余久々既本
ヲ改ルニ意

リ未タ著手
ニ違アラザル
トリ

雜事

ヲ害フヲ多シ、裁制ヲ加ヘザル可ラズ、且我邦ノ
俳優ハ、演シテ唱セズ、外國俳優ノ如ク、且演シ且
唱スル趣アルニ似ズ、猿樂ノ狂言、及ビ俗間ノ茶
番、狂言ナル者、體裁更ニ善シ、今一步ヲ進メ、猥雜
ニ流レ、ガ、時情ニ濶ラズ、滑稽ノ中ニ諷刺ヲ寓シ、
時弊ヲ譏諫スルヲナドアラバ、世ノ益トナルト、
亦少ナカラズ、外國ニテハ、高名ノ文人等、歌章ヲ
作り、梨園ニ附シ脚色ヲ設ケ、演セシムルヲアル
ヨシ、藝園ノ雅遊ト云フベシ、扱劇場ハ、規模亦大
ニ興張セザル可ラズ、大略公園地ハ、法度ニ準シ、

讀心禮名家文少卷之三 二十一

賦金又ハ有志ノ寄附金等ヲ以テ都會ノ地ヲト
 ニ壯麗宏雄ナル公堂ヲ建築シ、衆庶公樂ノ處ト
 シ、上ハ皇上ヨリ、下ハ平民ニ至ルマデ、同遊偕
 樂アルニ至ラバ、最モ妙トス之ヲ要スルニ樂ハ
 衆ト偕ニスルニ加カズ、苟モ衆ノ樂ム所ヲ度ト
 シテ、改正セバ、豈振興ノ道ナカラシヤ、偏ニ才
 リ志アリ餘カアル人ハ、裁制誘導アラシム、ハ要
 スルハ也。

○○地震說
 津田真氣道
 地震ハ災害ハ尤酸毒ナル者ナリ、其震動スルヤ、

山ノ崩シ、河ヲ決シ、地ヲ拆キ、家ヲ倒シ、樹ヲ拔キ、
 獸ヲ殺シ、人ヲ傷ク、嗚呼災害ハ酸酷ナル實ニ地
 震ヨリ甚シキハナシ、而シテ其理知り難シ、古人之
 ヲ皇天ノ震怒トシ、恐怖スルヲ帝ニ日蝕彗星ノ
 ミトラズ、然レ地震ハ皇天ノ震怒ニアラズ、又皇
 天豫ジメ此妖孽ヲ下シテ、人主ヲ戒ムル所以ニ
 アラズ、蓋シ地震ハ造物主、此地球ヲ造成スルニ
 臨テ、洵ニ止ムヲ得ザルハ、景象、即地球ヲシテ、今
 日ハ形狀ヲ得セシム、吾人ヲシテ、生カスルヲ
 得セシム、ル所以ハ手段ハ、我地球ノ渾沌タル

西人ノ想像
ハ皆究理ニ
根柢ス日本
及支那人ノ
神代往古ヲ
談ガレモノ
妄誕無稽
ト同視ス
カラサルナリ

ヤ、一大火球ノミ。蓋シ我地球ハ、太陽ノ支子ニシテ、分封セラルル、所ノ者トス。而シテ火熱ハ四表ニ發散ス。是其性ナリ。火球外面ノ熱氣、漸ク天空ニ飛散シ、其外部、轉冷所ヲ生シ、物質凝結シテ、始テ地殼第一層ヲ成ス。所謂花崗石層是ナリ。凡ハ物、熱甚シケレバ、飛颺シテ、氣狀ト為リ、熱減シ、冷カハリ、疑テ、流體ト為リ、結テ、堅體ト為ル。水ハ瀛ト為リ、氷ト為ルニ同ジ。既ニ而シテ地殼上ニ散布スル所、氣類凝聚シテ、雲霧溼合、大雨流ス。方如ク、洪水天ニ滔リ、地ヲ環リテ、海ト為ル。此時ノ景況、

小東

想フニ、堯時ノ洪水ニ比スル、何ゾ、帝千百倍ハ、ナランヤ。然リ而シテ地殼固結スルニ從テ、所々ニ罅隙ヨリ、地心ニ侵入シ、火熱ニ抵レ、倏變シテ沸湯ト為リ、忽又化テ瀛ト為ル。瀛外水ニ比スルニ、千七百倍カ、地ヲ占ムルヲ要シ、數百千倍ノ張力ヲ有ス。則シテ張力カ、有スト、雖、地殼ハ、為ニ阻ヘラレテ、其發出スル所ヲ失ス。是ニ於テ、更ニ激怒シ、極テ、其威カヲ逞シウシ、地殼ヲ昂起シ、山岳トナシ、強テ、其頂巔ヲ破リ、電飛雷擊、閃爍震鳴、天空ニ迸散シテ止ム。其景象ノ、驚愕、畏懼スベキ、何ゾ、帝

小東

西人ノ算スル所ニコレバ海ハ地面ノ三倍ナリ

今日ノ地震噴火山ニ千百倍スルハミナラハヤ然リ而シテ此ノ如キ大變異ノ景象ヲ重ヌルヲ幾千百回ナルヲ知ラズ其間年所ヲ歴タルヲ亦幾千萬年ナルヲ知ラズ因テ以テ地球目今ノ形狀諺ニ所謂六海三山一平地ヲ得タリ是大洪水前地震及ビ噴火山說ノ大略ナリ而シテ今日ノ噴火山ハ其餘燼ニシテ西人之ヲ漁槽ノ避禍管ニ比ス而シテ今日ノ地震ハ又其餘波ノミ若シ夫レ地球ニ此大變異ノ景象ナク唯引カニ是從ラ時ハ地心地體地衣皆真ノ圓形ニシテ中心ハ瞿曇氏

揚

以工地震叙事ナリ

ノ所謂金軸火輪皮肉ハ地輪水輪衣被ハ風輪ニシテ地面皆海面ニ蔽ハレテ顯ハレザルベシ然レバ則地面上ニ生ズル所ノ者皆水生水族ニシテ方今ノ地上氣中ニ生タスル所ノ草木禽獸絶テ有ルヲナカルベシ然ルヲ况ハヤ吾輩人ニ於テハヤ乃地震ハ造物主此地球ヲ造成スルニ就テ必要欠クベカラザルノ景象ニシテ吾人ハ世ニ在ルハ即地震ノ賜ナリ造物主ハ地震ヲ用カルヤ人ハ火藥ヲ用キテ巖石ヲ炸裂シ山ヲ穿チ道路ヲ作ルニ比スベシト云天外子曰ク人主ノ

讀ハ禮俗家文以卷之三 二十四

本意以下説

兵ヲ用ウルヤ。猶造物主ノ地震ヲ用ウル如キカ。
國家洵ニ止ムヲ得ザルノ形勢ニ際シ、真ニ已ム
ヲ得ザルノ情實ニ因テ、之ヲ用ウレバ、則以テ國
難ヲ除去スベシ、則以テ國威ヲ弘張スベシ、則以
テ國光ヲ增加スベシ、則以テ境土ヲ開廣スベシ、則
以テ國福ヲ洪大ニスベシ、寔ニ此ノ如クナレバ、國
家用兵ノ利亦大ナル、造物主ハ地震ヲ用キテ、
地球ヲ大成スル如ク、ナルベシ、然レモ其間猶人
ヲ殺ス、數千萬、財ヲ盡ス、數千萬、國內貨源一
旦空個スルノ憂ヲ免レズ、則戰利アリ、其瘡痍

揚

抑

妄動輕舉ノ西郷先生
猶ホ見レザ
マントム況
ヤ〇〇〇公
ヲ

全ク愈テ、百事舊觀ニ復スルニ至ル迄、君民更ニ
十數年ノ拮据經營ヲ要スベシ、矧ハ、輕舉妄動、
四ニ兵ヲ弄シ、武ヲ黷シ、其國ヲ顛シ、其民ヲ毒シ、
其身ヲ滅スニ於テ、ハヤ、地震專ラ人ノ為ニ地ヲ
為ス所以ナリ、兵固ヨリ、國ノ為ニ之ヲ用ウト雖
モ、到底何物ノ為ニ地ヲ為スヤ、嗚呼、鷓蚌相持ス
ルハ、漁夫ノ利ナリ、黃龍野ニ戰フハ、豈復白帝子
ノ利ニアラザルナキヲ得ンヤ、嗚呼、近時拿破崙
三世ハ、不世出ノ英雄ナリ、然ニ妄動輕舉、遂ニ戰
敗レテ、身倫敦ニ客死ス、是其ノ自取ル所ノ殃、將

嗚呼三復乃
古文ノ法

偶然名ヲ獲
官ヲ獲位ヲ
獲ルモ、比
々是レナリ
獨リ淺草成
田ノ先生ノ
ミナラザルナ
リ

夕誰ヲ怨ミ誰ヲ尤ンヤ唯傷ムベキハ佛國三千
七百萬人ノ生靈今日猶其餘毒ヲ蒙ラザルナシ嗚
呼是レ人主ノ殷鑒懼而畏レザルベケンヤ

○天理人道

福澤諭吉

淺草ハ觀音成田ハ不動ニ靈驗アリトテ參詣ハ
者群集シ寒村僻地ハ觀音不動ニハ信心ハ者少
クハシテ淋シキハ何ガヤ其佛體ハ靈ナルト否
トニ由ルニ非ズ一旦ノ偶然ニテ信向スルモノ
ハ益信向シ參詣スル者ハ益參詣ス唯世上ノ評
判ニ誘ハレテ然ルハ之故ニ信心者ハ佛體ヲ信

語人ヲ驚ス

ズルニ非ズ他ノ信心者ヲ信ジテ寺ニ參ル者ト
云フベシ世ノ論者ガ動モスレバ天理人道ト云
フトテ唱ヘ此ハ天理ニ基ブクト云ヒ彼ハ人道
ニ戻ルト云ヒ一定不變萬古動ス可ラサル者ノ
ヤウニシテ議論ヲ立ル者多ケレバ其實ハタワ
イモナキトナリ忠臣二君ニ仕ヘズ貞婦兩夫ニ
見エザルハ天理人道ナレバ管仲ガ桓公ニ仕ヘ
甲州武士ガ徳川其他ニ仕ヘテ働タルモ亦天理
人道ニ戻タルニ非ズ年若キ寡婦ガ剃髮シテ尼
寺ニ入り亡夫ノ菩提ヲ吊フモ天理人道ナリ再

再緣云
文正公ヨシ
チ見セシメ
ハ領首善ト
稱ス可シ

舜ノ兩妻ヲ
娶リタル公當
時ノ天理人
道ト云フ可
クシテ方今
文明會社ニ
數妻教養ヲ
娶ルハ天理
人道トハ此
ト申サレ難
クランカ

波瀾伏起筆
カ抑厭スベ
カラザル勢
アリ盡ク批
スルニ由テ
ズ

暫時ノ二字
人ヲレテ捧
服已マガラ
シム

緣シテ子ヲ生ンテ能ク其子ヲ教育スルモ天理
人道ナリ。今ノ世ニ兄弟姉妹方夫婦タラバ天理
人道ニ戻ルナラント雖氏「アダム」「イーヴ」ノ子供
ハ誰ト縁組シタルヤ。又日本書記ニ仁徳天皇三
十八年春正月八田ノ皇女ヲ皇后ト為ストアリ
皇女ハ天皇ノ妹ナリ。今ヨリ之ヲ思ハハ不審ナ
ハ。其時代ニハ矢張天理人道ニ基キシトナラ
ハ。往古ノ事ハ差置キ。今日ニ於テモ世界各國ニ
天理人道ヲ殊ナルモアリ。數年ノ間ニ天理人
道ヲ變化シタルモアリ。支那日本ハ家族ニテ

主人ハ威張ルハ。支那日本ハ天理人道ナリ。西洋
諸國ニテ。細君ハ跋扈スルハ。西洋諸國ハ天理人
道ナリ。數年以前封建ノ時代ニ大名ノ家來ガ主
君ノ為ニ命ヲ致スモ。天理人道ナリ。今日ニ至リ。
其主君ヲ同輩ノ如クスルモ亦天理人道ナリ。赤
穂ノ義士ガ敵ヲ討タルハ。元祿年間ノ天理人道
ナリ。明治年間ニ之ヲ駁スルハ。明治年間ノ天理
人道ナリ。火葬ハ法ハ數百年來天理人道ニ基カ
事ナリ。シガ。暫時天理人道ニ戻ル事ト為リ。又近
日ハ天理人道ニ基カテ復シタルハ。數年ハ後

此處文章回
轉夕日ニ映
スルカ如
彩色ニ光
彩アリ

ハ、更ニ復タ、天理人道ニ戻ル可キヤ、圖ル可ラ
ズ、右ノ如ク、天理人道ハ、古今ニ殊ナリ、國々ニ殊
ナリ、人ノ地位ニ由テ殊ナリ、數年ノ經過ニ由テ
殊ナリ、殆シト其在ル所ヲ求メテ、之ヲ見ル可ラ
ズ、論者ヲ爰ニ至テハ、辨解ノ路ヲ得ズ、此天理ハ
覆ルヲ見テ、驚キ、彼ハ人道ハ、反對スルヲ聞テ、恐
シ、或ハ之ヲ數ト云ヒ、理ト云ヒ、正ト云ヒ、權ト云
ヒ、牽強附會ハ、遁辭口實ヲ設ケ、久シ時氣免レハ、
トスレバ、其心ハ、底ニハ安ハズ、所由得ガレガ
如シ、若シ愚人ノ以テ平氣ニ安スルハ、必竟其由緣ヲ

輕亂用、
四字此論、
起源

古人曰ク、飲
食其正得
ザルモノハ
饑餓之ヲ害
スレバナリ

尋ルニ、此論者ガ、天理人道ト云フ文字ヲ、輕ハ亂
用シテ、混雜ヲ致スノ罪ナリ。其狀恰モ空腹ノ者
ガ、食物ヲ得テ口ニ適セザルモノナリ。麥ノ團子
モ美ナリ。牛ノ肉モ美ナリ。會席料理ハ固ヨリ旨
ク、半腐敗シタル、冷飯モ亦共ニ旨クシテ、却テ其
旨否ヲ混雜スル者ノ如シ。蓋シ空腹者ハ、内ニ旨
否ノ辨ズルノ腹ナクシテ、唯傍人ノ美ト名カル
物ヲ美トスルノミナレバ、其團子ト、牛肉トニ、區
別ナキモ、尤ナル次第ナリ。彼ノ論者ガ、天理人道
ト稱スルモ、自己ノ思想ヲ疑ラシテ、其道理ヲ辨

續今體名家抄卷之三

シタルニ非ズ唯世上ノ衆論ニ誘ハレテ世論道
理ナリト云ヘバ之ヲ道理トシテ信ジ世論不道
理ナリト云ヘバ之ヲ不道理ナリトシテ疑ヒ其
信疑ハ全ク世論ノ向フ所ニ從テ嘗テ天理人道
ハ本體ヲ求ル者ニ非バ世論ノ變化ニ當テ狼狽
スルモ亦謂レナキニ非ザルナリ事ノ種類ニ別
ハアリハ淺草ノ觀音成田ノ不動ヲ信ズル輩ニ
比シテ毫モ其趣ヲ殊ニスルヲナシ我黨ノ學者
ハ古今ニ所謂天理人道ナルモノヲ信ゼズンテ
今正ニ安心立命ノ地位ヲ求メントスル者ナリ

逢ニ上段ニ
照應

主意

徳川三百年
ノ人民ハ只
有機體ノ動
物ト稱スベ
シ人間トハ
云フヘカラ

蓋シ其目的ハ天下泰平家内安全ニシテ人々最
大ノ幸福ヲ亨ルニ在リト雖氏徳川ノ如キ武力
偏重治法專制ノ泰平ヲ以テ泰平トスルニ非ズ
又西洋諸國ノ如キ財力偏重智者專制ノ泰平ヲ
取ルニモ非ズ無氣無力ニシテ他ニ制セザル
ノ家内安全ハ真ノ安全ニ非ズ無欲ニシテ足ル
ヲ知ルハ幸福ハ真ノ安全ニ非ズ都テ天地間ノ
事物ニハ自カラ順序ヲ存シテ一定ノ法則アル
モノナレ氏其法則ノ働ヲ視察シテ之ヲ實際ニ
論ズルヲ甚ダ容易ナラズ思想高尚ナル者ハ之

讀入 豊名 及 之 以 夫 二 三 九

先生ニシテ
始テ此語ヲ
發スベシト
先生ハ知ル
ト雖モ發ス
ベカラズ發
スト雖モ世
人信ゼザル
ナリ

題名已ニ其
ノ凡ナラザ
ルヲ見ル

是等文章宜
ク演說體ト
名クヘシ

ヲ視察スルコト高く、思想賤シキ者ハ、之ヲ視察ス
ルコトモ亦賤シ、學問ノ要ハ、唯思想ヲ高尚ニシテ、
實際ヲ忘レザルニ在ル。學者小成ニ安ンズ
可ラザルナリ。

◎◎舊發明ノ器械

近來ハ、器械ノ話ガ、多クゴザリマシテ、水車、加羅
臼、ナドハ既ニ、古ルクサク。ナツテ、兎角西洋流デ、
ナクテハ、ラチガアカズ。日新日新ト、申シテ、蒸氣
傳信ナド、色々新發明ガ、アリマスガ、人情新シキ
ニ趨キバ、古ルキヲ忘ル、モノト見エテ、茲ニ世

一語人ヲシ
テ聞ント欲
セシム妙

自由ノ辨自
在ノ筆

ノ人ノアマリ、氣ノ付カヌ。古ルイ器械ガ、
ゴザイマス。此器械ハ、至テ手輕イモノデ、價ハ百
文バカリデ、手ニ入り、其用キヤ、ウモ、誠ニタヤス
ク、格別ハ傳授モ、アリマセヌ。此器械ガ、アレバ、ソ
レハ、夫レハ、自由自在ノ働カ出來デ、奇々妙々デ。
ゴザイマス。馬鹿者ヲ、利口者ニシタリ。利口者ヲ、
馬鹿者ニシタリ。世ノ中ヲ治ムルコトモ、アレバ、世
ノ中ヲ亂ルコトモ、アリ。人ノ喜怒哀樂ヲ、自由自在
ニ取扱ヒ、マシテ、躍ラセタリ、舞ハセタリ、泣カセ
タリ、笑ハセタリ、或ハ人ヲ殺シタリ、人ヲ生カシ

長谷國勝南郡
高取岡氏藏本

一結最モ奇
々々々々々々
イマス

タリ。師ヲ起ス。トモ。アレバ。和睦ヲ結ブ。トモ。アリ。
金モチ。ノ家ヲツブ。シ。貧乏人ノ身代ヲ起シ。トハ
ナ。ム。ヅ。カ。シ。イ。ト。デ。モ。出。来。ヌ。ト。ハ。ゴ。ザ。イ。マ。セ。マ。
夫。人。蒸。氣。車。傳。信。機。ナ。ド。モ。モ。ト。ハ。皆。此。器。械。ヲ。以
テ。作。ツ。タ。モ。ノ。デ。ゴ。ザ。イ。マ。ス。カ。ラ。都。テ。世。ノ。器。械
ノ。大。元。デ。其。發。明。ノ。時。代。ハ。能。ク。分。リ。マ。セ。ヌ。ガ。何
ハ。デ。モ。余。程。昔。シ。ハ。ト。デ。ア。リ。マ。ス。カ。ラ。新。發。明。ト
ハ。申。サ。レ。ズ。舊。發。明。ノ。器。械。デ。ゴ。ザ。イ。マ。ス。其。名。ハ
何。ン。ト。申。ス。カ。御。存。ジ。ハ。ゴ。ザ。イ。マ。セ。ン。カ。御。存。ジ
ナ。ク。ハ。申。シ。マ。シ。ヨ。ウ。筆。ト。紙。デ。ゴ。ザ。イ。マ。ス。

續今體名家文抄卷之三

偶評 續今體名家文抄卷之三終

續今體名家文抄卷之三終

010190527951

48 13095

